



〒612 TEL 075-641-4536
京都市伏見区深草谷口町 75-4
荒木 光 あらき ひかる
(私のスカウト活動の師の師・BS京都第28団)

小川先生は、小さい頃から私にとっては、峰の頂の先生でした。私の小学校時代のことだったと思いますが、私の所属していた団の何周年かの記念式の時来賓としてお見えになったときが、小川先生にお会いした最初であったと思います。そのときの印象はただ一つ「何と声の小さな方なんだろう」でありました。この印象は終生変わりませんでした。

リーダーになってから、ある先輩から次のような事を聞きました。「小川先生がお話しになるときの声が小さいのは、聞いている人の注意力を高めるためにわざとなのである」なるほど、声高らかに演説をするだけが能ではないのだと、妙に感心したことも思い出されます。

教え込むだけの教育では駄目で、みずからやる気にさせてやるのが教育なのだと言われたような気になりました。



〒612 TEL 075-922-7583
京都市伏見区久我森の宮町 2-169
荒木 碩哉 あらき ひろや
(私に「善き社会人とは」を説いて下さった・BS京都第28団)

先生に初めてお会いしたのは、確か中学2年生の5月の連休。仏光寺さんの境内で行われた、軽井沢ジャンボリー参加の為の訓練の時の事だったと思う。鏝の広いスカウトハットを被り、行進の指導をやって居られた姿が、とってもスマートに見えた。

高校2年生。指導者講習会を受講した時の主任講師が、先生であったと思う。スカウト運動と宗教の講義で、私は大いに食ってかかったのを憶えている。

その後、大学の文化祭等で、しばしばお目にかかりスカウト運動の原点に触れることが出来た。仲間と共に、先生のお宅にもお邪魔し、深夜まで、スカウト運動について議論した。

『真のスカウトとは、明確なる信仰を持つことであり、よってこれが善き社会人である。』と、説かれた先生。安らかにお休み下さい。



〒606 京都市左京区下鴨泉川町 58-28 TEL 075-721-5902

五十嵐 達志 田辺 順子

(BS京都第38団在籍・団委員・ちかいの式1973.11.25)

小学校5年生、ボーイスカウトの活動も余り知らないまま長休寺へ…。
“小川先生の話”少し首を傾け一人一人の目を見ながらポツツと話をされる。よく聞いていないと聞き逃してしまう。何気なく煙草を指で揉み消し、眼鏡をずらして8ミリを撮影される、会議中、居眠りをされていたかと思うと急に意見を述べられる。長休寺スカウトなら皆が知っている小川先生。

ボーイスカウト38団に入隊したから先生に出会う事が出来ました。スカウトを続ける事の素晴らしさと難しさを学ばせて頂きました。スカウティングを実践し、ユニホームを着用する事は、先生と共にスカウトの仲間として歩む事が出来た誇りと証しです。長休寺スカウトが、ちかいとのおきての実践者であり続ける事が、先生の志しを継ぐ事になるのではないのでしょうか。

先生に出逢えました事に感謝致しております。

小川先生ありがとうございました。

弥栄

五十嵐 達志

私は、影のスカウトです。活動はいたしません。教を賜った事もあります。ただ、玄縮ジャンボリーのみ参加という実績を持っております。38団ボーイスカウトを五十嵐氏の側より感じて参りました。

緑化募金、行進の為に旗を持つ位の印象しか、ボーイスカウトに対してなかったものに大変化が起こった事は、確かです。決してこれらの活動が、そうとは申しませんが、もっと中味のある集まりである事を確認出来ました。私自身の勝手な解釈、理解にすぎませんが、人間の基礎、自分自身を育てる事がまた一人の仲間を生み、また一つの集まりを造る。小川先生は、大変素晴らしい核となられた方、この核を亡くされた38団は何ものにも変え難い思いを残されている事でしょう。

でも、この集まりは、偉大な方に育てられた人々の集まりなんです。続行、成長してこそ意味がある、と思います。

制服を着てスカウトになれる38団の方々が羨ましいです。

今、暖かな瞳で38団を見守っておられる事でしょう。

38団、がんばって下さい！

田辺 順子



〒621 京都府亀岡市余部町前川原 41-1 TEL 0771-23-0263

石田 幸史郎 いしだ こうしろう

(WB研修所BS課程近畿地方第2期で指導を受ける・ALT)

私が小川玄諦先生に直接ご指導いただいたのはただ一度きりです。けれども、この一度きりが私をスカウト運動の虜にしてみました。

昭和45年9月、和歌山市山東町で開設された研修所B・Sコース近畿第2期に入所させていただきました。その時の所長が小川先生でした。この時のノートは今も大切にしています。このノートを開くとあのときのことを鮮明に思い出すことができます。静かに、しかしはっきりと説き聞かせるようにお話しをされる先生のお姿にすっかり魅せられてしまいました。

亀岡の小さな町の中で、何も知らないままボーイ隊の隊長をしていた私はここで本当のスカウティングを教えていただくことができました。つまらない殻の中に閉じこもっていた私を引きずり出し広い世界を見せてくださったのも小川先生でした。この研修所で先生に師事した私は目を見開くことができました。いままでスカウト運動を続けていくことができたのも、この時の感動があまりにも大きかったからです。

研修所の間にノートを提出しました。返されて来たノートを見てまた驚きです。先生の手で誤字は訂正され、脱字や足りないところはきっちり、丁寧に加筆されていました。今日私が何とかご奉仕させていただくことができるのもこのノートのお陰です。このノートを開くと今でも先生のお姿を思い浮かべることができます。

その後は、先生とはあまりお話をする機会もなく、また、ご指導いただくこともありませんでしたが、私には宝物のノートと、小川玄諦先生のお話をされる先輩の皆様方のお言葉を聞かせていただただけで充分でございます。



〒569 TEL 0726-89-9254
 大阪府高槻市真上町六丁目 45-2
一 澤 宗 弘 いちざわ むねひろ
 (CSに子供三人入隊・父親、母親までが一緒にお世話になった)

小川先生とうまい酒

チヨット早すぎやしませんか！神様、仏様、小川先生にはまだまだ、沢山やって頂きたい事が山程ございましたのに。この紙面ではとても書きつくせぬ思いが私のみならず、皆さまの胸の奥で赤い炎となって燃えている事と存じます。

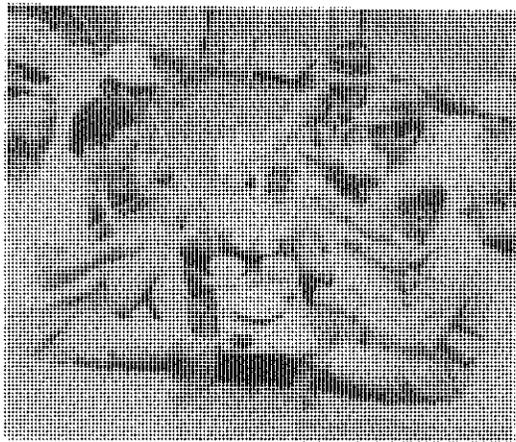
京都第4団45周年を目前にして、さぞやご無念の限りであったとご推察いたします。余りにも大きい足跡は私など知る限りもございませんが、大谷スカウト連合協議会、ボーイスカウト京都連盟北山地区、長休寺スカウト協議会等の受けられたショックの大きさは余りあるものと存じます。

思い出は、もう15年近くにもなるのでしょうか、ある時、春のキャンプで百井から帰ってきたとき、長休寺グランドの一角で桜の花が満開に咲いていた。余りのみごとさに見とれていると先生は、やおら奥の部屋からオールドバーのウイスキーを持ち出してこられ、満開の桜の下で早速お花見が始まったことがあった。スカウトと一緒にキャンプから帰りつき、やれやれホッとしていた時であったので、この時の一杯はこの他うまかった。

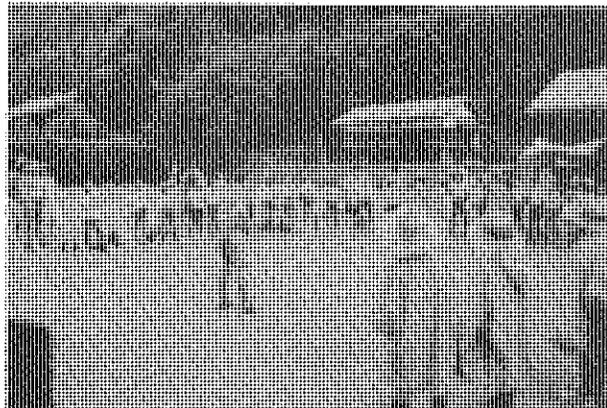
その時におっしゃられた先生の一言は今だに忘れられず、あの静かな口調で「思いっきり何かをやった後の一杯は、ひと味違いますね」この言葉は昨日のこのように思いだされる。それ以来私は、その思いをもう一度と毎日呑み続けているが、あの時の味は2度と味わえていない。

先生、冥土には清酒「極楽」と言う銘柄のめっぼううまい酒があると聞いています。お忙しかった娑婆のことはもう忘れて、これからはじっくり腰を据えて、うまい酒をチビリとやってください。

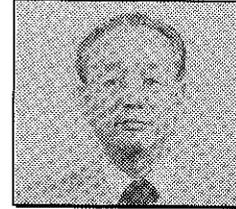
合掌



百井全隊員との思い出の集まりに共に参加する



この時、お父さんキャンプの地を離れ、冥土行きの旅に出る



〒272-01 TEL 0473-95-5377
 千葉県市川市湊新田 2-1-18-701
井 辻 憲 一 いつじ けんいち
 (長休寺を巣としたスカウトOB・数百年前から長休寺の檀家)

小川玄諦先生の御逝去に大変驚き、いうべき言葉もありません。

私は、小学校時代から(昭和10年頃から)ボーイスカウトに入り、春夏秋冬、土日を問わず、小川先生のご指導を受け、スカウト精神の何たるかを教えて頂きました。又、よく親鸞聖人のお話も伺い、浄土真宗の深い教えも噛み砕いて、よく私達に話して頂きました。

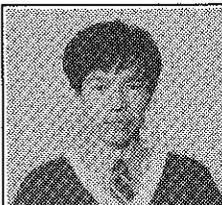
ハイキング・キャンプなどで、あちこちへ出かけましたが、いつも小川先生は、やさしい慈愛の目で導いて下さいました。

浜辺のキャンプファイヤーで、星空の下、スカウトのあり方や世の生き方について、あのおちついた声で話して下さいましたのを、つい昨日のように思い出します。

戦時中、大日本青年団に吸収されましたが、私達は依然ボーイスカウトを名乗っていました。

心から先生の御冥福をお祈りします。

小川玄諦先生から、丁度、井辻さんのものが載っている昭和16年の夏野営批判会のコピーを以前に頂いておりましたので、(縦書きのため)最後部にその一部を掲載しました。(編集者 末吉)



〒600 TEL 075-351-7920
 京都市下京区木屋町通上ノ口上ル聖真子町 172-1
井上 博之 いのうえ ひろゆき
 (大谷スカウト・BS京都第37団SSL・お孫さん直人君の担任)

小川先生にはまだまだ多くのことを教えて頂きたかったので残念でなりません。

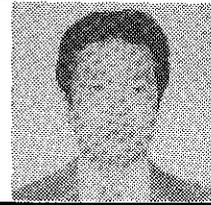
最初に小川先生にお会いしたのは、おそらく、大谷スカウトの大会だったと思います。ボーイくらいの時ですから、ただ偉い方がお話しをされたという程度の印象しかありませんでした。その後、名誉奉仕訓練に参加させていただき、スタッフとしても奉仕するようになって、近しくお話しをさせていただきました。いつも優しい笑顔で我々の活動を見守っていただき、様々な話をさせていただいたのを覚えています。

また、縁とは不思議なもので、4年前には先生のお孫さん(直人君)の担任をさせていただくことになりました。私の奉職している大谷高校に来られていることなどまったく知らずに高校2年生の折(1年生の時にも教科では教えていたのですが)、クラスの生徒の明細書を見て、思わず、驚いてしまいました。その後、高校を出るまでの2年間、一緒に勉強することとなりました。ちょうど3年生の時に妙高高原で第10回の日本ジャンボリーがあり、東本願寺の青少年センターで、先生とお孫さんの話など、楽しく話をさせていただきました。思えば、あれが最後のお姿でした。

こうして先生のことを思い出して、なにか書こうとすると、本当はそんなに色々教えていただけてないように思います。まだまだ、お話しをお聞きしたかったのにそのことを考えると本当に残念です。ただ、いつもにこやかに私のしていることを見守っていただいていたあのお姿がいつも思い出されます。これからは機会を見つけて、先生の残されたお言葉を勉強させていただきたいと思っています。

御冥福をお祈りいたします。

京都第37団シニア隊隊長
 井上 博之



〒603 TEL 075-461-1899
 京都市北区大將軍西鷹司町 63
今達 弘一良 いまだて こういちろう
 (昭30年頃、技能章考査等で可愛がって?頂く・講習会等で指導を受ける・京都第76団)

スカウト運動の、困難期を支えてこられた先人達の訃報に接する度に時代の流れを感じています。

特に、先生には直接ご指導いただいただけに、淋しさも一入です。私自身、技能章の考査を受け、また私の指導したスカウト達も考査をしていただく等、身の引き締まる思いで長休寺を訪れたことを思い出します。

今年の地区の新年会にご出席の予定でしたが、気分が優れないとこのことで欠席されました。お目にかかりお話ししたいことがありましたので残念に思い、自宅におられるとこのことで途中で抜け出し、ご都合も省みずお伺いしたのが最後となりました。私のスカウト人生のある部分に大きな穴があいたような気持です。今日迄のご指導に改めて御礼申し上げ、ご冥福をお祈り致します。

下記は、昭和61年に城陽で行われた、玄諦ジャンボリーの際、自分のチーフに想いを記したものと、お亡くなりになったので、一部修正したものです。

おが	わ	げ	ん	た	い	お	か	わ	げ	ん	た	い
きて	ん	れ	ん	し	や	に	げ	す	ん	に	の	ま
と	こ	ら	た	や	さ	の	の	れ	え	ん	し	は
誓	に	が	い	さ	か	道	小	ら	き	袋	く	昔
	守	か	、	ず	の		川	れ	時	も	語	
	り	か	か	歩			と	な	代	懐	る	
				ん				い	か	か		
				だ				か	し	しく		
									く			



〒602 TEL 075-431-1896
京都市上京区油小路通上立売下ル水落町 91

今村 脩 いまむら おさむ

(BS京都第38団元団委員・息子と娘がお世話になった)



〒635 TEL 0745-22-8033
奈良県大和高田市幸町 12 10

上嶋 満里子 うえしま まりこ

(二女)

るがま吉8C陶心の
上末3年薫心
への希望が今
学校人(昭)も
素成(頂)共
小は形10言
が詮以子お
子所聞息な
息、人加し静
、のとに命す
はの動Sに物
私のも活Cを、
なしたの員と
好った8団委
の伴立3も先
のへ織3も・川
活動組私SS・
活山介くSS・
外々ず程SS・
来り過ぎなS
元より過のS
頃れにのSを底

の団生然時も担当が身山先抱
名他先俄た私る子ら北川
数も小川とし。れ端息か、小
にの時人苦成長の秋に8と
の一人にに汚誉年會3全糧
のつりか年代の団に名1機にも
1、プな0め力世し和の年きぬ
は、出4取有をと昭の数べ得
C、加昭内にも暇員てすりすれ
8、のにて定地、の重中のも生
3、のム得、山し8出ををこで終
のすーをめ、任3い活た脈と、願
時合ゲ援始は兼る思Sっ人脈と念
3、集と支し増8員進々て相々の賜
当集と支し増8員進々て相々の賜
8、のム得、山し8出ををこで終
3、のにて定地、の重中のも生
8、のにて定地、の重中のも生
3、のにて定地、の重中のも生



38 団行事
模擬店開催のスナップ

スカウト経験のない私が、寄稿させていただくのは、僭越ではございますが、父、小川玄諦を知っている一人として仲間に入れてください。父は私が生まれるより20年も前からスカウトだったのです。私は、父も知らない事を、知っているのです。食べて行くのが生いっばいだった戦後、父が東京ヘスカウトの研修に行くと言う。この時母の嫁入りに持って来た着物が東京行きの旅費に化けてしまった事です。後々に、母から聞いた話です。

38団カブ隊が創設された頃、本堂の前の銀杏の木と、南側のへのそばにあった木にロープを結び滑車を付け、ニコニコしながらカブスカウト達をターザンの様に遊ばせているのです。顔を覗かせながら、母は「木がいたむのにな」と嘆いているのです。今ならこのアスレチックにもあります。土曜、日曜の本堂は、カブスカウト、ボーイスカウトで溢ればかりに賑やかに活動しておりました。通称10帖の間はスカウト達の会議室となり、檀家参りから帰ってきた父は、夕食もとらずに、タバコをふかしながら、指導しておりました。キャンプ前には、本堂の前庭で準備が始まり、いろんな物が運び込まれます。それは、立派な竹製の食器棚が出来ている時もありました。スカウト達が、キャンプに行った後は、シーンと静まり返った荒れた庭が残されているのです。今は裏の広場に、ハウス長休を建てて頂き活動は、すべてそこで行なわれ、その当時何か物足りない寂しい気持ちになりました。糺の森でジャンボリーがあった時夜、9時か10時頃台風による大雨のため、びしゃ、びしゃになった地方のボーイスカウト達を、引き連れて帰って来るのです。そしてわが家の小さなお風呂に次々と入れ、本堂で一泊していかれた事もありました。4年程前、私が里帰りをしていた夏の午前4時頃、ドンドン、ドンドン「小川先生開けて下さい！」と、門をたたく音。ボーイ隊のご父兄で、キャンプ場での事を中傷する電話が入ったと、心配して来られたのです。父は、いっしょにタクシーに乗り、滋賀県までとんで行きました。単なるいたずら電話だったらしいのですが、いつまでも、賑やかな寺だと思ったものです。衣を着て袈裟を掛けて、裏の広場のボーイスカウト達を見守っているのです。「檀家さん待ってはるのに」母の声が聞こえてきそうです。スカウティングに於て、父の嘆く姿も見えています。

晩年は、父と親交の深かった大谷ローバースカウトの大先生方が、先立たれ寂しそうにしておりました。体力的にスカウトの最前線で活躍できなくな

った事も寂しかった事と思います。

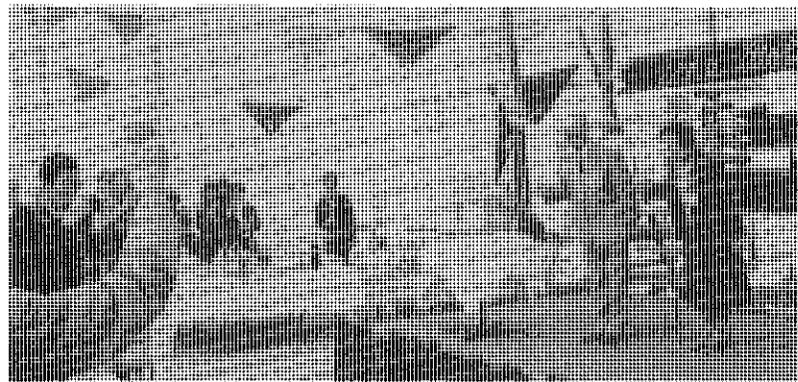
比叡山閣で、古希のお祝いをしていただく2日前の私に宛てた手紙に「スカウトが、古希のお祝いをしてくれると言う何と照れくさい事」と書いています。玄諦ジャンボリーに於ては、夫婦揃っての旅行のプレゼント本当に良くして頂いたと感謝の気持ちでいっぱいです。2人揃っての旅行は、これが最初で、最後本当に思い出になった事でしょう。年と共に、スカウトの前線から遠退くに連れ、自坊の方が忙しく、これも人気商売か、などと、冷やかしかし半分に、内心思っていたものです。亡くなるまで、スクーターに乗り出かけておりました。81才になってからは、2度ひっくり返ったと聞いております。2度目は、長休寺の門前で、通りがかりの学生さんがスクーターを起こして下さり「そりゃ、もう無理ですは」の言葉にショックを受け又、ありがたい言葉と受け取っていたそうです。2度共、大した怪我もなく済んだのはスカウトで鍛えた体のお蔭かとも思います。先日、中村様に乗って頂く事になったスクーターの両側にきず後が残っておりました。もし、私が81才まで生かされるのなら、81才でスクーターに乗ると言う事はどんな事なのか、経験したいものです。平成4年3月23日父の誕生日に、私に宛てたファックスに「人生八十一年よくここまで生かされて来たと思います。年を重ねての身をいたわりつつ動いています。ようやく自己に目覚めさせられつつの過程を歩んでいます。円熟の齢とは言え、まだまだその境地には、いたりませんが生かされて動けるかぎりには、と思っています。十日あまりまえワープロも新品に取り替え、新しく挑戦していますの意欲ですから、ご安心を」とありました。父の話しによく聞いた北小松、妙高、朝霧高原、戸隠、御殿場、etc...一つ一つ私の家族とテントを張って、訪ねたいと思います。

亡き後、父の言葉を思い出すに付け浄土真宗と、スカウトの教えにどっぶりつかっていた自分に、改めて気付きました。

住職歴62年、スカウト歴61年、父は、あっぱれであった。

最後に、父が、研修でどんな講義をしていたのか聞きたくまた、あの低い声が懐かしくどなたかテープに収めていらっしやれば、貸していただけないでしょうか。

本当に、末吉様はじめ、皆様のご配慮賜りありがとうございました。



昭和61年11月2日玄諦ジャンボリー開会の乾杯



〒606

TEL 075-722-9334

京都市左京区松ヶ崎久土町 1-33

榎本 信也 えのもと しんや

(BS京都第38団在籍リーダー・ALT・長休寺にて結婚式)

小川先生を偲んで・・・

毎年元旦の午前11時11分、長休寺さんに家族連れで集まるようになって、何年になるだろうか・・・この1～2年は小川先生にお会いする機会もなく、元旦の家族互礼会だけになってしまっていた。3年程前までは北山地区のシニアリーダーのラウンドテーブルを、長休寺さんにて開催させて頂いたこともあって、月に一度は先生にお会いする機会もあった。そんな時先生はいつもの語り口で、何かを言ってくださる訳でもなく、物静かに「どうですか」といった感じで、いつも温かく見守って頂いてる感じであった。1人1人のスカウト活動に対する自発活動があってこそ、それぞれのスカウティングが実りあるものになる、というのが持論で、本当は各団におけるスカウト活動こそが、基本にあると言われていたように思います。この10年近くは38団の団活動からも離れ、地区の活動に入り今は連盟のお役を頂きながら、スカウト活動をおこなっている訳ですが、先生のスカウト運動の思いを大切に心に刻みながら、スカウト運動に参加してまいりたいと思っております。

先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。 三指 榎本 信也

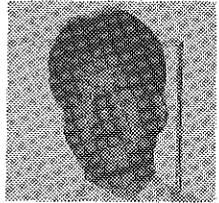
小川先生とは私が小学1年の頃、兄のカブスカウトの集会について行き声をかけて頂いたのが初めてでした。その頃はデンシスターというお姉さん役があり、憧れた私は高校生になったらデンシスターをやろう、と心に決めたのです。結局デンマザー補として参加したのですが、38団で活動した数年間は内弁慶（人は嘘おーと云うが）だった私が、何事にも積極的に取り組む人に変身し、それ故、地味な兄と比較された先生は、よく「男女逆にした方が良かったんじゃないかな・・・」などと云われたものです。

いつも振り向くと柔和に微笑んでらした先生に、もうお会いできないと思うと、寂しくもあり、そして一つの時代が終わったように感じるこの頃です。



小川先生のお葬式で来賓に招かれた時。あーと、おかしな事や」(左・右)

榎本 純子



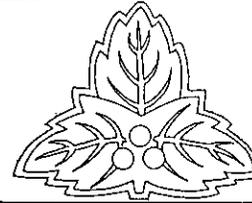
〒616 TEL 075-461-0811
 京都市右京区花園鷹司町 25 花園団地 3-303
遠藤 亘 えんどう わたる
 (BS京都第38団在籍・SS隊副長)

昭和40年長休寺の表庭で、にこにこ笑ったが、サグスカウトの集会を見て、おられた衣姿の先生が、集會に来た私に声をかけてくださったのが最初の出会いでした。

スカウティングについて直接先生と話した事はありませんでしたが、リーダーを通してさまざまな事を学びました。先生とゆくり話をしたのは、三回ほどで一度目は、当時ふさふさしていた私に就職のおせわをして頂いた時、二度目は結婚をする時、三度目は独立をして商売を始める時でした。この時は夜おそくまで色々な事を話して下さりました。

いつごろか忘れてしまいましたが、当時のワープロがまだ100万円以上していた時に先生が購入されうれいそうに私に話しておられた事や、新しいカメラを買うためカメラ屋に行くとき最新式のカメラは、先生にはおれいそうとカメラ屋のおやじに言われたと笑ったが、話されてた先生の笑顔は、子供が玩具を買ってもらった時のような笑顔で忘れられません。そして平成5年1月旧長休寺で私の子供をひざの上にのせて笑っておられた姿が最後になってしまいました。独立をしてしっかりとやっている姿を見せる事が唯一の思返したと思っておりましたがまにあいませんでした。

先生が「おしえていただいた中、どんな時でも自ら学ぼうと姿勢と人に対する心が大切だ」という言葉と、人間中心特に人の内面、心を強く正しくする事、人とは対等であるなどを、いつまでも忘れずに家族、友人をたっせつとして行きたいと思っています。



〒603 TEL 075-431-9838
 京都市北区小山上総町 22 大谷大学内
大谷大学 ローバースカウト部
 (BS京都第30団)

わが小川玄諦先生の生涯は戦前の大谷大学健児団そして戦後のローバースカウト隊、ひいては、大谷スカウトの歴史そのものでありました。

大正8年10月の大谷大学健児団の創設と、それを中心に運営された大谷みやこ健児団、大谷六条健児団、大谷中学校健児団など8個団に及ぶ京都市内の団の運営と指導。

さらには、それを引き継ぐ形で、昭和33年4月には、大谷大学ローバースカウト隊(京都第30団)が発隊され、加えて、京都第31団、京都第33団、京都第37団、京都第38団、京都第64団、それに谷大アダルト(ガールスカウト)の発団、運営、指導にご尽力くださいました。

とりわけ、谷大ローバーの発団にあたっては、申請時に、その意義をご配慮くださり、ご自坊の長休寺に団本部をおく実習隊(第38団)と団号を交換してくださいました。

以来、団委員長に大谷演慧先生を仰ぎ、もっぱら副団委員長としてご指導くださいました。クラブボックスは別として、長休寺は谷大ローバーの集會場所でもあり、スカウト教育研究の学場でもありました。そして、ここから巣立ったローバースカウトが全国各地に帰り、新たな大谷スカウトの団を発団していきました。

静かな口調で淡々と語る言葉の数々は、耳をそばだてないと聞こえてきませんでした。しかし、必死に聞き、ノートをとった若き日々でした。ここを巣立った諸氏は今では、全国各地でそれぞれの人生を営んでおります。だが、その多くは、何年たっても、その折りのノートと資料を今も手放すことができないで、大切に蓄えております。かく言う筆者もその一人で、いつか暇になったらまた、そのノートを紐解きたいと、果たせぬ夢をみております。全国に散った玄諦精神は、谷大ローバーの躍動の原点であるとともに求めてやまない童心の夢とさえ化しているのであります。(田代俊孝記)



大 藪 俊 一 おおやぶ しゅんいち
(BS京都第38団CSからOB会まで32年のおしえを受けた)

1993年3月11日 出張中のテキサス州ダラスにて、当悲報を聞き、ほんとうに信じられない気持ちでいっぱいでした。1991年3月より、米国赴任中だったの「小川先生、体を悪くされたのか？」と次から次から疑問と小川先生の思い出が浮かんで消え...するのでした。

カヌスカウトでの初めてのキャンプ・神崎海岸で、BS隊の先生のテントの中を見せてもらい、自作のベッドに驚いたこと...結婚式で主賓としてご挨拶いただいたときのおことば...。昨年(1992年)おさわざ直筆でアメリカまでいたいた写真とお手紙...。私がローバ隊の隊長のとき、忙しい中にも夜な会議に出席していただき、「Rovering to Success」輪読会に教員のアドバイスをいただきました...。

「桜の花はほんとうに美しいけれど、桜の木は自分を美しく見せるために咲いているのですか？」といったお言葉を今でも覚えています。

さ。今の自分になぜあんなにさうかと考へてみると、美=小川先生のあつげで自分が存在しているような気がしてなりません。

家族ともども、2年3ヶ月の海外生活を楽しく過ごせたのも、今から20年前「国際キャンプスタッフ」で米国に2ヶ月渡航出来たことに感謝をさせていたことに気が付きました。同じボーイスカウトながら広い国・違う文化に慣れ、英語・韓国に大きな興味を持ち出すまで。

しかし一番良く覚えている、今もほろり泣いておられるかと思われている先生からの、お礼の言葉でした。大学一年生在又島のキャンプで私はカプ隊の副長に参りました。その後の反省会で小川先生が「消極的な参加姿勢はダメだ」といった内容だったと、その言葉通り、大学時代から前向きに、積極的な目的に変わったこと、今もほろり泣いてお礼に感じています。

小川先生、ほんとうにお礼がどうもありません。



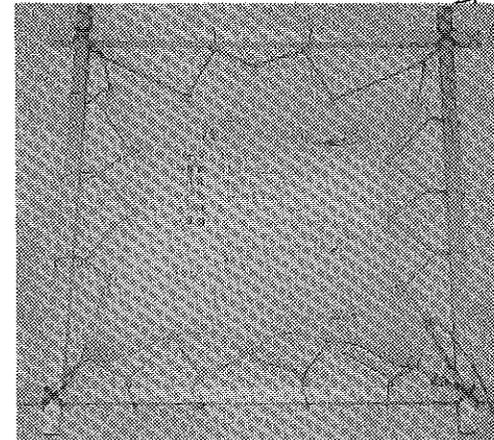
〒602 TEL 075-441-5303
京都市上京区寺町鞍馬口下ル 高德寺町 348
小 川 フ ク おがわ ふく
(妻)

4団ボーイスカウト追悼法要の後、末吉さんより、沢山の方々からお寄せ頂きました原稿を、涙涙で読ませて頂きました。こんなに多くの方々と、御縁を頂き、スカウトとしての人生は、幸せそのものであったのだと感謝しております。若き時の事は、二女満里子の原稿で、私の忘れてしまっている様な事まで書いておられて、今さらながら思い出している次第でございます。

玄諦ジャンボリーも感激で、どの写真も二人の顔が涙ぐんでいるのが思い出されます。

晩年の住職は、神経痛で痛む足を引きずりながら、身には重いカバンを持ち、帰って参りますのを待って、二人で話し合う一時間が、何よりの楽しみでございました。五酌程の晩酌にも、眠気を催し「あ、団委員会やった」と、目を覚まし、ハウスへ行った事も度々でした。きっと会合の席で、居眠っていた事でしょう。

今から思えば、法務の他には、訪ねてくださるスカウトの方々に会えるのが、楽しみでした。私との会話の中では「もう、限界やで、何時お迎えが来ても不思議ではない。お浄土で待ってるで。」と、よく言って居りました。二月に受けた検査の結果も異常なく、でも今、私が、神経痛の足に耐えながら歩いている時、こんなにも体力が消耗するものかと、我慢強かった住職を思い、本当に、最後までご苦労様でございましたと、頭の下がる思いでいっぱいでございます。

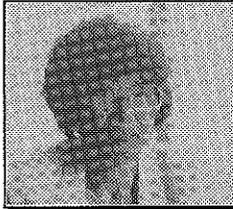


移動キャンプ指令書

- テーマ 玄点から未来へ
- 目的 有意義なフルムーンツアーを楽しむ
- 日程 一年以内を限度に実施せよ
- 行先 栃木県那須塩原温泉
- 同行者 妻 小川福子夫人一人のみ
- 課題
 1. ボーイスカウト日本連盟那須野営場を尋ねること
 2. 那須与一のトーチカボール前にて二人腕を組んで記念撮影すること
 3. 那須郷土資料館を訪問し記念スタンプを所定の \blacktriangle に押すこと
 4. 善行記録を報告すること
- おきて
 1. ゆとりある日程を組み 酒・タバコもほどほどにゆったりすべし
 2. 道中 妻に感謝の気持ちを常に忘れずそれを行動に示すべし
 3. 土産は豊かな報告書のみとすべし

玄諦ジャンボリーでの皆様からのプレゼントの目録はからずもこの日は、私達の結婚記念日でした。『移動キャンプ指令書』本当に有難うございました。

昭和61年11月2日 玄諦ジャンボリー WOLF一同



〒606 TEL 075-781-1245
京都市左京区松ヶ崎西桜木町 56

川原 廣子 かわはら ひろこ

(BS京都第4団育成会OB)

『小川先生の想いで』

団委員会でお目にかかる先生は、何時もやさしい団委員長様でした。スカウト達が喜々として長休寺に集まり、また私達も団委員会や育成会に集まり喜んでお手伝いが出来ましたのも、先生がやさしく見守っていて下さったからだと思っております。

ある時『あなたのお母様と御一緒にね・・・』と母の事を話されたのはびっくり致しました。丁度母がガールスカウトに携わっておりました時に、先生にお目にかかっていたようです。今から40年近く前の事を憶えていて下さったのです。それ以来、先生と親しくお話をさせて頂けるようになりました。

舎営に行ったり、キャンプに行ったり、何も分からない私達を、スカウト達と共に一緒に一つ一つ出来るように御指導を頂きました。

スカウト達は今、別々の道を歩き出しましたが、心の中にスカウト時代に築いたものは一生忘れることなく、社会の中で生かし続けて行く事と信じております。

最後に四団の益々の御発展を祈りつつ 感謝のうちに・・・

四団育成会OB 川原 廣子



〒532 TEL 06-396-1246
大阪市淀川区東三国 5-7-6

河原 昌史 かわはら まさし

(BS京都第38団CS・BS・SS・RS・リーダーと15年在籍)

合掌

小学校2年の秋にサンパチに入団し、カブ・ボーイ・シニア・ローバ・B.S隊副長、S.S隊副長と約15年間に渡り自宅と長休寺の間を往復していたのに、社会人となり約10年の間長休寺の門をくぐる機会がなかったのですが、まさか小川先生の告別式で長休寺の門をくぐることになるとは思ってもいませんでした。

思えば初めて話をしたのはカブに入団した頃、まだ長休寺の裏にチビッコ広場があったとき、広場の柵を乗り越え長休寺の裏の広場へ入ったとき先生に見つかり叱られたときでした。

それから行く数年、ハットのスカウト章に羽がつきサンパチ内の数々の会議に出席するようになり、先生の話を身近に聞き又、先生と話をするようになり本当の意味での先生を知ったと思います。(宴会、お酒好き)又、会議のときには、静かに入っただけの後ろで半分眠られた様な格好で最後まで全員の話を聞いておられたのがいつまでたっても忘れられません。今となっては、先生はおられませんが”玄諦SCOUTING”はサンパチ全員が引き次いでいるものと思います。



(7NJ 静岡県御殿場朝霧高原 日曜礼拝のあとで)



〒869-42 TEL 0965-52-2241
 熊本県八代郡鏡町大字下有佐 安楽寺
清谷得龍 きよたに とくりょう
 (盟 友 ・ 大谷みやこ健児団OB)

今年の小川氏の賀状に肉筆で「家内もいつも一度お邪魔したいと申していますし、その内にお邪魔したいと思っています」と添え書きがあったので心待っていたが、その希望も空しく急に不帰の人となってしまい名残惜しい極みと申す外はない。

先日、長休寺ご住職の御挨拶状と一緒に頂いた隊長末吉央伯氏の誠意に満ちた帛辞に「小川玄諦先生が好まれたうす青色の紙を使用した」とあって氏の小川氏への敬愛が表白されたようで、私の胸を強く打ったが、同時に私を85歳から20歳代の昭和5・6年の記憶を呼び覚ませたのである。

その頃、大谷大学の学生数名が堀川通りの一角に自分達の借家に近くの少年達を集めて、健児教育を行なっていて、その隊長が学友だったので、私も時折訪れてはその仲間に入れてもらっていたが、その学生の中の一人が小川氏だったのである。

この集団が“大谷みやこ健児団”の名のりをあげ、京都に於ける大谷派唯一の健児団として誕生したのか昭和6年のことである。

その頃教団内で日曜学校再生の為、健児団の訓練を取り入れて見ようということに決まり、その企画、実働、施設指導等全てをみやこ健児団に委託し、団の総力を結集しての華仕によって、昭和7年夏、洛西釈迦谷の原野に、日曜学校幹部訓練所が開設され、今まで一度も開拓とか設営とかキャンプとか未経験の住職等三十余名が原野に班別に放りだされ、途方にくれているのを、みやこ健児団の若者達が引き受け、共に汗にまみれつつ指導に励み一日毎に班意識に目覚め、設営も進み6日後には夫々立派なサイトが完成し、閉所の際は感激の涙にぬれながら、健児団を自坊に開設することを誓い合っけて別れたものである。その時締めていたネッカチーフが本山から渡されたうす青色のもので、みやこ健児団が選定し当時「うすはなだ色」と称し、以来大谷健児団のシンボル色となったのである。

その後私は京都を離れて自坊に帰り、馬齢を重ねて今日に及んでいるが、たしか昭和三十幾年かの頃、小川氏から大谷健児団の記念集会の通知を受け上山の際、御影堂前で奥さんを紹介されたが、驚いたことに私が青年の頃、離れ家を借りて居住したかその家主さんの娘さんで、台所が通路であったので朝夕挨拶を交わし、御家族皆さん親切な方々で大変お世話になった人であり、その奇遇を喜び合ったことである。

今にして思えばその生涯をかけて、うす青色のチーフに結ばれた大谷健児団の奉仕者を自覚し、悦こんで京都に於てその母体の役目を果たし、それこそ親鸞聖人の自信教人身の、み教えを實踐された念仏の行者であったことを、尊く拝まずに居れないのである。 南無阿彌陀仏 合掌。



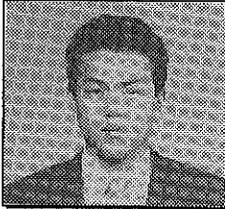
〒939-16 TEL 0763-52-0251
 富山県西礪波郡福光町高宮 880
黒川 紘紀 くらかわ こうき
 (B S 京都第30団発団時谷大RS隊OB・同第38団CS元隊長)



伝統ある「隊長 富士野営」も今回で幕を閉じるという昭和44年の夏、私が隊長として参加しており、野営長をつとめられたのが先生でした。

プログラムも進み、キャンプファイヤーでは三輪谷先生の「オーの歌」を300名のスカウトで大合唱、山中の森に“もえろかがり火”の歌声が響きわたりました。

その時の先生の満足そうな笑顔が今もなつかしく思い出されます。それもそのはず、オチの先生と私が300名のスカウトを相手に歌唱指導をしたのですから、悪戦苦闘ぶりを想像してみてください。 素晴らしい夏でした。



〒602 TEL 075-231-6449
京都市上京区寺町広小路上ル北ノ辺町 395

小林 泰之 こばやし やすゆき

(BS京都第38団OB)

今、私は小川先生の突然の死に接し、驚きと同時に、生前先生より御教授いただいた様々な教えを感慨深く思い起こしています。

ボーイスカウトを通じて小川先生に教えていただいた様々な事柄は、私にとって計り知れない、掛けがえの無い財産となっています。

例えば、「カブスカウトで見た夢をボーイスカウト、シニアスカウトで叶え、そして、今度はローバースカウト、リーダーとして指導、奉仕をしていく。このように横のつながりだけでなく、縦のつながりを大切にすることが重要であり、それは、スカウト活動のみならず、社会に出ても必要なことである」という様なことを常々教えて下さいました。私は、そのつながりには円(サークル)があり、さらに、その中に和があったと思います。その円の中心にいつも小川先生はおられ、我々スカウトの和を保って下さいました。また、先生のスカウトを見る目は、時には優しく、時には厳しくあり、そういう先生の真の愛情のもとでスカウト活動ができたことは、大変な幸せであったと思います。

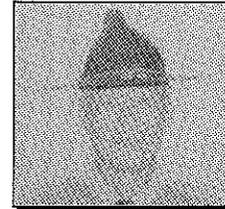
しかし、ボーイスカウト活動が嫌な時期もありました。例えば、制服を着ているのが恥ずかしく、集合場所の近くで着替えをしたこともしばしばありました。今から思うと、スカウトとして本当に情けないことですが、そんな時、小川先生は私を呼び止め、

「小林君、ボーイスカウトは制服を着ているから活動ができるんだよ。今まで経験してきたことが、この制服にしみこんでいるんだよ。その経験を誇りに思いなさい。その制服を誇りに思いなさい。」と制服の重み、意義について優しく教えて下さったのです。その時、私は「嗚呼、なんて自分は情けないんだ！ 今まで何をしてきたんだ！」と反省するばかりでした。このように小川先生の言葉は、一言一言、説得力のある有り難いお言葉でした。

ところで、現在、私は“今ここに生きている”ということをもットーとして人生を送っています。つまり、“今まで育てていただいた御恩を自分の人生にどう生かしているか”ということです。もちろん、この考えの中には、スカウト活動を通じて、小川先生からいただいた様々な教訓が活かされていることは、いうまでもありません。今後は、小川先生から御教授いただいた様々な教えを、更に自分の人生の中に生かして生きていこうと思います。

最後になりましたが、小川先生の御冥福を心よりお祈りし、お別れの言葉とさせていただきます。

合 掌



〒607 TEL 075-581-0574
京都市山科区竹鼻サイカン町 3

近藤 良三 こんどう りょうぞう

(玄諦先生BS門下生・東山地区協議会長・BS京都第50団)

ボーイスカウトの偉大な巨星が消えられたとの訃報を平成5年3月11日
盟友末吉英伯様より受け一瞬全身の血が凍りついた様でした。
丁度3月13~14日鳳山市での日本連盟救急法講習会開設研究会 竹貞奉出
の爲3月12日夕方長休等へ最後のお別れに参りました。御奥様の御許
に得た。今にも目を潤かせて小と声に語りかけてこられる様な穏やかな
お静かな御顔を おぼせ預きました。袂元の「キヤビン」と御眼鏡
が、いまも胸裏にやさしくおられます。昭和43年8月23~28日
滋賀県彦根野で近々実修竹少年部(小川先生 竹長)の御指導を
全期間中入竹させ頂戴しました。それ以後昭和45年W.B.研修竹
近々少年部才2期(和歌山)、才8期(滋賀)才9期(滋賀)の小川竹長
に竹貞奉出させ頂戴。スカウティングと指導者道を御教授、御指導
頂戴しました。特に才2期(和歌山)研修竹の最終日竹貞会議
(午後1時)で小川竹長より全竹貞に入竹者個々の修了承認
を諮問されました。或る一人の入竹者に就いて、入竹より受講態度
精神状態、班員としての自覚、協調性等全てに於て修了不適と
論議がなされ、翌朝5時迄激論が交わされ遂に小川竹長
一任となり、結局閉会式で修了証が授与されました。小川先生の
御意見は本人の念いが悪くない、何%の良さを今後の活動
に期待したいとのことでした。私も昭和62年日本連盟副リ
トレーナー、平成2年日本連盟リダートレーナー就任に際し恩師小川先生
は「スカウティングの原理、原則を外れてはならない」と強調されました。
W.B.研修竹85課程京都13区、14区竹長奉仕では小川先生の「ちかひ
おきて」の実践の御教えが身に沁みました。未熟を痛感しました。
玄諦キヤボリーで私が京都初回発回時の色あせた用紙を大変
喜んで受取った頂いたお顔が思ひ出されます。京、京都38回発回
記念に青銅のお級巡様を頂きましたが大切に合掌いたします。
「永遠のスカウト」を実践されました。恩師小川玄諦先生の御教え
を引きさき、今後スカウティングに全力を盡します。
小川先生の御冥福をお祈りして 合掌



〒601-12 TEL 075-744-2777
 京都市左京区大原草生町 324
坂井 隆之 さかい たかゆき
 (大谷スカウト連合協議会で一緒に)

小川先生に初めてお会いしたのが今から約10数年前、その間教えられる事ばかりでしたが、近年は私の都合で年賀状のご挨拶ぐらいで特にお会いする機会もなかったのですが、私にとってはアウト・ドアーライフの楽しみ方を教えて頂いた一人でもありました。というのは、昭和54年の夏と記憶していますが、大谷スカウト協議会の全国大会が石川県の極楽坂スキー場で開催された時の事です。キャンプの初日は、テントの設営を初め何かと多忙な一日ですが、それでも夕方になりますと一寸一息入れる一刻があるのです。私もそんな時に、何げなく京都地区のテントを見ている途中に、小川先生のテントが目に入りました。それは個人用のコンパクトなテントでした。外側から内を垣間見ると、入口より左サイド一杯にベッドがあり、正面突当りには小机(?)があり、その机の上には、書籍類が数冊整然と整理されていたのが、今でも脳裏にあります。そしてそのテントの簡潔な事、これぞ野外生活の神髄であると言う見本を見た様な気がします。

それ以来、私もキャンプする度に、自分なりに整理整頓を試み、少しでも先生のテントの様に他人が見ても、清潔感あふれる楽しい野外生活をエンジョイしたいと願っているのです。仲々思う様に行かず、これからもキャンプする度にあの極楽坂キャンプ場での先生を思い出す事でしょう。

合掌



〒640 TEL 0734-23-1795
 和歌山市小人町南ノ丁 12
榎 史郎 さかき しろう
 (WB研修所BS課程近畿地方第2期奉仕以来・BS和歌山県コミ)

小川玄諦先生にお目にかかったのは昭和45年5月。「ウッドバッジ研修所ボーイスカウト課程近畿地方第2期」の所長をされる先生が、開設場所の下見の為に来和されたのを、和歌山市駅にお迎えしたのが初対面でした。

初夏の一日、小川先生、志波(栄吉)先生、松尾(富次郎)先生、私の四人が車に同乗し、開設予定地を含め候補地2~3箇所を回りました。そして、当時廃屋の残っていた和歌山市山東の山東学園(児童収容施設)跡に場所が定められたのです。

「ハイキングコースを歩いてみましょう」

先生のお言葉で約6キロメートルのコースを一回りしました。

穏やかな良く晴れた初夏の一日。コースの途中に、新義真言宗根来寺の末寺、伝法院明王寺があります。境内の芝生に腰を下ろして、課題を検討し合う柔和な先生の語り口と温顔が印象的でした。

9月12日から15日まで研修所開設。夜中にボタリと百足(むかで)が落ちて来るような廃屋を所員宿舎に、周辺の松林をキャンプサイトにして3泊4日の研修所が展開されました。終始穏やかに、ツボを押さえた数々のご指導に接し、小川先生のアカデミックな指導者訓練を眼の当たりにすることが出来、大いに教えられたものです。

以来20年余。時にはお便りを頂き、時にはお手紙を差し上げ、ご昵懇にして頂きましたのに、もうお目にかかることも出来ません。

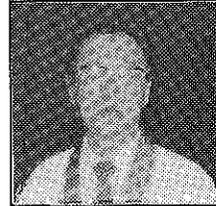
松尾先生、志波先生が先に逝かれ、今また小川先生が幽明境を異に旅立たれて終いました。

初夏の陽光の下、明王寺の境内の芝生の上に憩う先生のお姿を彷彿と思い浮かべながら、ひたすら小川先生のご冥福をお祈り致します。



〒943 TEL 0255-23-2019
新潟県上越市寺町3丁目 1-3
塩谷利英 しおや としひで

(東本願寺「池の平青少年センター」勤務時代の17年間の間お世話になった)



〒604 TEL 075-841-1271
京都市中京区西ノ京南聖町 19
篠原正信 しのはら まさのぶ

(講習会・WB研修所・研修会で指導を受ける・BS京都第5団)

玄諦先生とハンドブック

小川玄諦先生の思い出集に他団の私まで教えを受けた者の一人としてお声をかけていただき誠に光栄に存じます。

振り返りますと昭和35年の長休寺の講習会より再度山のウッドバッジ研修所で、玄諦先生の主任講師で教えをうけていらし、今日までお慕いしご尊敬申し上げてきました。私が京都連盟の理事をお引受して以来いろいろの困難な事柄についてご相談し、ご迷惑をかけて来た反面又ご指導戴きながら数多くの楽しいキャンプを共にお世話させていただいてきたことを懐かしく思い起こすのでございます。

私は常々玄諦先生のことをアメリカのスカウトハンドブックの様だと思っておりました。

私が中2のころ四条東洞院にアメリカ文化センターがあり、そこにはアメリカのスカウトに関する様々の本が本国からとどいていました。さし絵の楽しさや面白さに興味を覚えボーイズライフやスカウトハンドブックを辞書を片手にその意味を理解したものです。日本のスカウトのものは子供向けのものは少なく、指導者向けのものは難しく、そこで集会がマンネリになるとアメリカ文化センターへ遊びに行きました。ハンドブックは何かを私に教えてくれました。

小川玄諦先生は語り口はお坊さんらしく、始めは人を引きつける様に静かに、ボソボソと興が乗ってくるとだんだん大きく、難しい言葉がポンポン飛び出しノートを取る手をやめ必死で聞き流さないよう努め、話終わった先生の後ろ姿に感謝の念を覚えたのでございます。この様に先生はハンドブックのように人を引きつけ離さない魅力があり、困ったときの良い助言者であり、新しい知識や情報の提供を受け、何時も手の届く所におられたのでその様に思ったのでございます。

手近にあるハンドブックと思い、これ幸いと幾度もお訪ねし、時にはスカウト仲間と連れ立って押し掛けていったものです。話が長引くと角瓶を枕になられる先生を尻目に長夜の議論をしたものです。今でも口泡を飛ばしながらスカウトの目指しているものは、科学なのか、宗教なのか、と難しいことをやりやっただのを覚えております。

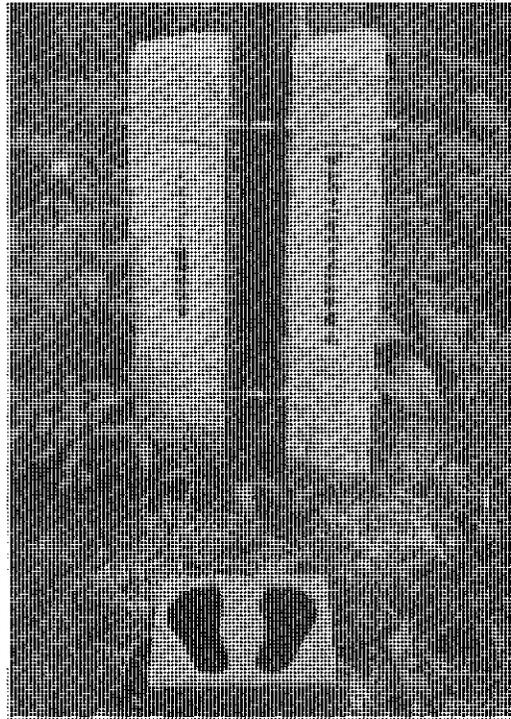
さて、スカウト以外で先生をお慕いしていた者が一人おります。それは私の家内です。

昭和44年、末吉央伯先生と東山の近藤良三先生と私がウッドバッジ実修所に入所のため京都駅に集まった時、私と近藤先生は旧洛星地区の大勢の人達に見送られ来ておりました。そこへ末吉先生を見送って玄諦先生がお見えになりました。私が1才と3才の子供を連れて家内を紹介すると、先生は大変丁寧に長期間留守にすることや、子育ての苦勞にねぎらいの言葉をかけてくださいました。そのことが家

内にとって非常に印象深く、今もって強く覚えていてくれています。

私たち夫婦揃って玄諦先生のご冥福を祈り関係者の方々のご健勝と関係団のご発展を祈ってやみません。

保護司 篠原正信
京都第5団 団委員
(元京都連盟府副コミショナー)



{われらははえある スカウト大谷 きぼうの
ともしび はるかにかかいて いやさか いやさか
い、さ、か、いさんですすめ}

と歌って呉れて居る、全国の大谷スカウトの声が聞こえるような気がします。



昭和48年新潟県妙高高原町池の平に東本願寺が青少年教化育成のため、野外研修道場として建設された、「東本願寺池の平青少年センター」と言う施設があります。

このセンターの広場には「佛旗・スカウト団旗」を掲揚するポールがあります。その前に、大谷スカウト先師の称号を授かった、小川玄諦先生の足跡を刻んだ石板があります。又その隣には石川県金沢の、三輪谷先生作の「スカウト大谷」の歌碑が並んでいます。

これらの石は遠く岡崎からスカウトが運び、雨の中危険を伴う作業をやり据え付けた、先生を慕うスカウトのこのころの発露が形になったものです、先生の悲しい報せを聞き、センターの広場に立ちあの懐かしい日々を思い出しました、まわりの草を採り、ひざまずいて耳とほほを石板にそっと、くっつけてみました。在りし日の眼鏡の奥のやさしい眼差しが蘇ってきました、先生の声が微笑みがこのセンターに託された、大谷スカウトの願いを永遠に伝えてくれよ、と言っているようでした、隣の「スカウト大谷の歌碑」がその声に和するように、

今でもセンターの食堂に、京都38団を本隊として、キャンプファイヤーをした時の写真が掛けてあります。



〒602 TEL 075-432-2434
京都市上京区相国寺西門前町 647
下坂 紀一 しもさか きいち
(BS京都第38団在籍・団委員長)

追悼

小川先生 永い間お世話頂き本当にありがとうございました。
ボーイスカウト運動に御尽力され、全国に多くのスカウターを育成、スカウト道とも言うべき“道”を求め、他界される直前まで、スカウト活動について論議、探求されつつも……。

小川先生を亡くしたことは、我々スカウト関係者にとって、大きな痛手であり又損失でもあります。まだまだ先生には、長生をしていただき、私どもを叱咤、激励をしていただきたかった、そんな思いでなりません。

ただただ、私どもはいつも先生に、大変ご迷惑をお掛けしていたのではないかと、ハウスの維持管理（窓ガラスの破損、集会後の火の点検、電気の消し忘れ、門の鍵紛失、広場の清掃草むしり）等々、そのほとんどを先生に任せ切りであったことを、今更ながら心苦しくてなりません。

小川先生と私ども家族との出会いは、長休寺の門徒檀家として、祖父の代よりお世話になり、祖父の死後、月参りを頂きそれ以来20年近くなります。また 父・母も小川先生の、お念仏を頂き浄土に参らせて頂きました。公私とも大変お世話になり感謝の申し様も御座いません。

特に私が団委員長を拝命した時、団運営についてのノウハウを御指導頂きながら、つつがなくも3期（6年）役務を全う出来ましたことは、ひとえに小川先生のご厚情の賜物と深く感謝いたしております。

しかしながら、小川先生が亡くなられて、何時でも感傷に浸っているわけにはいきません。次の時代を担うスカウト達の訓育を一日足りとも欠かすことはできませんし、先生のご意志であった、ハウス長休の建替計画を前進させなければ成らないと共に、スカウト活動の原点を見極め、永く38団を継続させていくことが、小川先生への報恩であると確信しています。



〒602 TEL 075-441-5303
京都市上京区寺之内通新町西入 妙顕寺前町 514-10
末吉 央伯 すえよし おうはく
(B・P以上の存在・BS京都第38団在籍・シニア隊長・LT)

弔辞を読み返していると、いつも同じところで胸がいつぱいになる。小川先生にしてみれば、日本でスカウティングは育ったが、広まらなかったと残念がっておられると思うからだ。“Scouting is a movement and not an Organization”(スカウティングは運動であって組織ではない。-創始者B-P言葉)というのは日本では通用しにくいと、スカウト連盟組織の役職を退かれて、さっぱりしておられた。



(ロンドンB-Pハウス内で、'79.7.玄師先生撮影)

B-Pは神に対する勤めを説き、騎士道をそのベースとしたから、日本の武士道を高く評価していたようだ。でも日本にはそれとは別の受け入れ方があった様に思う。

小川先生は仏教徒としてのスカウティングを悟られ、B-Pにはない東洋の農耕民族のセンスを生かされていたように思う。真理に目覚める仏教徒としてのスカウティングを探求された。そして仏教章の制定に力を注がれ、その第1号は、京都第38団の宮西敬朋氏となった。第1号といえは、京都の富士スカウト第1号も京都第4団の深田智之君であった。古い話をされるとけっこう草分け的な存在であったご自分のことを、自慢する振りは少しも感じなく聞かせて頂いた。

弔辞に組み入れたが、小川先生は後藤新平総長の言葉はあまり好まれなかったというか、引用されなかった。それより佐野常羽先生の清規三事(おぼやかしと読む)を好まれた。実践躬行(じっけんこうぎょう)。精究教理(せいこうきょうり)。道心堅固(どうかんかんとく)である。何かというとこれを引用された。先生ご自身、この通りのスカウト人生であったと思う。

どのようなスカウト組織の一員であったかということより、どんなスカウトを育てたかがリーダーとしての誇りだが、その評価は自分で出来ないものだともおっしゃっていた。昨年小生が地区コミッショナーから課題として、11月のラウ



〒606 TEL 075-721-4570
 京都市左京区高野東開町 1-23 高野第3住宅 21-401
惣 司 純 治 そうつか じゅんじ
 (スカウト時代より長い間、ご指導頂いた・ALT・京都第76団)

先生に対する記憶の最初は昭和38年2月頃だったと思います。長休寺の裏庭(現在のハウス長休のある場所)で行なわれた、北斗地区開催のグリーンバー訓練に班長として参加したときの事です。

雪の降る大変寒い日で、集合したときには吹雪のような状態でしたので当然?全員長袖に私服の長ズボンという姿で集合していたのですが、リーダーから半袖半ズボンの制服になるよう指示がありました。全員寒さに震える中で開会式が始まりましたが、リーダーのなかに一人、『どこが寒いのか』というように泰然とにこやかな笑顔をたたえておられた方がおられ、すごい人だなという強烈な印象を持ちました。その当時は名前を覚える余裕もなく、印象だけを心に深く留めていましたが、後年になって小川玄諦先生だったことを知り、なんとなく?納得致しました。

先生と直接お話をした最初は私がシニアスカウトの時、技能章考査に長休寺にお伺いをしたときでした。その当時の技能章考査は、そんなに生易しいものではなく、まず一回の考査で合格することなど夢のまた夢でした。

絶対に自信のある得意科目に対し、あの優しそうな笑顔で、『それじゃあ、まだ駄目だ』といわれたときのショックは大きかったのですが、しかしそれだけ苦労したおかげで、合格したときの喜びは今でも鮮烈な印象の思い出となっております。

後年、先生と親しくお話させていただくようになったときに、そのことをお話ししますと、『技能章はその取得に対しどれだけ努力をしたか、その努力に対する表彰の面もあるんだ。得意な科目はそんなに努力しなくてもすぐレポートが書けるだろう、そんな状態で修得した技能章には感激が湧かないんだよ』と御指導頂きました。

霧の晴れたように目の前が開かれた気分になったことを思い出すとともに、指導者としての道のあり方を実体験させていただき、深く感激した思い出です。

指導者として御指導頂いた最初は先生が所長をなされたウッドバッジ研修所ボーイ課程近畿地方第1期に入所したときでした。参加前には『しごかれる』と聞いていたから覚悟していましたが先生の講義と実習を中心とした素晴らしいコースでした。

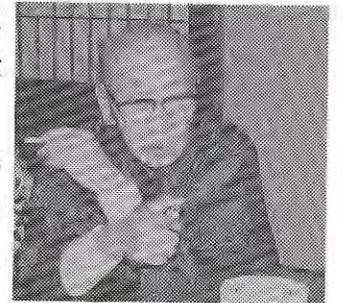
写真はその時の集合写真の一部で先生の右側2人目が私です。

御冥福をお祈り致します。合掌



ソドテーブルの研修テーマに「宗教とスカウティング」を頂いたが、その当日、小川先生にご出席をお願いして、小生の課題研修の成果を聞いて頂いた。その時この研修については決して誉められることがない先生から、よい評価を下されたことが本当に嬉しかった。「宗教とスカウティング」「ちかいとおきて」などについては、大抵の方々はこれについての質問などを受けると、それは難しい問題だなどと、先に煙幕をお張りになるが、小川先生だけは決してそれはなかった、いつも明快に答えて下さった。おかげで何とかこれらの研修テーマの講師をさせて頂けるようになったと言っても過言でない。

前頁の写真は、応接間に長く飾られお気に入りのもの、先生はB-Pの遺品を見るイギリスのスカウトのこの表情が、なんとも言えないと嬉しそうに話されていた。その姿が今も目に浮かぶ。



いつも周りの者は煙が目にしみた。

小川先生は最後までスカウト運動を忘れず、スカウト運動の中におられた。カブスカウトからリーダーまでよく面倒をみていただいた。さぞお世話になったと思う。もっと長生きをと誰もが願うけれど、82歳目前との齢を考えると、残されたもののわがままとしか言いようがないとも思う。

先生、ごゆつくりとおやすみください。

合掌。



38団のOBのうち妻帯者が元旦に御挨拶に伺う会「元旦会」を始めて11年程になるが、いつも子供づれの30人以上が散らかして帰るのに、子供達にお年玉を用意して毎年楽しみにして下さっていた。この集合写真は今年のもの。



〒603 TEL 075-432-4554
京都市北区小山南大野町 30
園田 隆三 そのだ りゅうぞう
(BS京都第38団在籍・団委員・会計監査)

今年も本堂と民家に囲まれたハウス長休の裏庭に
色鮮やかなさくらの花が咲きほころびました。
近年々の夜櫻の下 玄諱先生と共に育成会 デシマOB
の方々と共に語り飲み歌った時の先生の嬉しそうな
笑顔が夢の様に浮んできます。
人生の余暇を有意義なスカウト活動に奉仕する
教えるや親達 皆んなに慕われ尊敬される先生は
本当に幸せだったと思います。
慈悲な目で太陽の様にスカウト集ふ。祈いって暖かく
見守っていて下さいました。
強制力ではなく自覚心と養い 育てる教育であれば
こそ優秀なリーダーが成長し 自ら進んで奉仕する
育成会が存在したのだと思います。
先生の意志を大切に指導者 リーダー を合
スカウト活動の益々発展を祈ると共に協力
する事を誓います。
最後に幸せな人生を送られた先生と陰の
ささえて下さいました奥様 始めに家族の皆様
心より感謝申し上げます。



〒514 TEL 0592-26-7455
三重県津市上浜町 2丁目 202-3 (株)ジャックエツ津店2F
高橋 宏樹 たかはし ひろき
(BS京都第38団在籍OB・ちかいの式以来の恩師)

スカウト活動の中で小川先生との思い出は、38団への入団をお誘いいただいたから、
17年目の今日まで数え切れない程ありますが、その中でも、「偉大な小川先生」を感じた
思い出と「優しい玄さん」を感じた思い出について書こうと思います。

【大谷スカウト】

私は、小川先生に勧められて、何度か大谷スカウトの研修会などの行事に参加しました。
参加するたびに、「京都38団のスカウト」「小川玄諱先生の団のスカウト」という事で、
たくさんの方々にお声を掛けていただき、大変お世話になりました。今でも、多くの方々に
ご指導いただいています。その中には、私と親子以上も年齢の離れたスカウトの大先輩も
いらっしゃれば、年齢の近い仲間達もいます。特に、大先輩の方々には、機会があることに、
小川先生との思い出ばなしを聞かせていただきました。私自身、サンパチの中だけでしか
知らなかった小川先生が、多くの人達から慕われている事を知り、非常にうれしく思ったの
と同時に、それまで思っていた以上の偉大さを感じました。

小川先生を通じた縁で、大谷スカウトの活動への参加も増え、いろいろな貴重な経験を
させていただきました。中でも、発団30周年記念キャンプを行なった妙高高原・池の平に
小川先生の足形の碑を設置するのに立ち会う事が出来たのは忘れられない思い出です。
あれは、30周年記念キャンプの2年前に、大谷スカウト指導者研修会に参加をした時の
事で、あの小柄な小川先生の小さな足形が、すごく大きなものに感じたのを覚えています。
それから、この夏に開催される大谷スカウトの60周年記念全国大会のシンボルマークを
デザインさせていただいた事も忘れられない思い出になるでしょう。しかし、残念ながら、
小川先生は、この事をご存知ありません。実は、デザインが出来上がってから報告をしよう
と考えていましたので、依頼を受けた時点では報告をしませんでした。しかし、皮肉な事に
デザインの締切日が小川先生のご葬儀の日になってしまいました。仕上がったデザインは
愚作ではありますが、一目だけでも見ていただき良かったと、悔やまれてなりません。

【初恋の話し】

いつのことだったか、小川先生が「ずいぶん昔の話だけど…」と、ご自分の初恋の話を
してくださいました。残念ながら、私も小川先生もほろ酔い状態でしたので、具体的な内容
については、はっきりとは記憶していませんが、「恋愛は人間を成長させるものだから、
良い恋愛をたくさんしなさい」と、すごく穏やかな優しい表情で話をしてくださったのを
覚えています。お酒を呑んで笑っておられた小川先生は、スカウトの小川先生ではなくて、
「玄さん」という一人の優しいおじいちゃんだった気がします。

今、私は、小川先生ご生誕の地の三重県で仕事をしています。社会人になるにあたって、
小川先生 だったためいただいた「すでに道あり」を見つめながら…… 合掌



〒460 TEL 052-331-2468
 名古屋市中区橋 2-8 55 (大分県下毛郡耶馬溪町大野)

高藤 法雄 たかふじ のりお

(BS京都第30団発団踏谷大RS隊OB・同第31団BS元隊長)

小川先生の訃報に接したのは、丁度東京から名古屋に転任を命ぜられ、いきさか慌ただしく過ごしている時でありました。何かいままでついついそのままになっていた大きな大きな忘れものをつきつけられた思いでありました。

私の学生時代をふりかえると、小川先生のご自坊へほとんど毎夜の如く通いつめ大谷大学ローパスカウトの結成や、隊の運営、ボーイスカウトの理論をお教えたことが、中心でした。

先生のご都合やご家族のことなどおかまいなしに勝手にお伺いし、終電がなくなる時間までお邪魔しては、烏丸通りを南へと自転車で帰りました。このとき、京都の街は案外南と北の高さが違うのだなァーということを発見した気になったり、音程の合わないスカウトソングを歌いながら……。

大谷大学卒業後本山に入ったのですが、青少年を担当することはあまりなく、他の部門ばかりでしたので、その後小川先生のお宅にお伺いすることは段々少なくなりました。

ローバーの集会を現在のハウス長体の場所の広場で開かせていただき、そのあと先生を囲んでのミーティングは、今になっても思い出深いものがあります。

ミーティングでは最後には、スカウティングと宗教の問題に関していつも熱心に語られました。いつか、中村知先生・小川先生と一緒に知先生が「我いまだ自然の美と神秘を知らず」と色紙にしたためて下さいましたが、小川先生も宗教問題を語るときいつも自然観察のことと共にお話し下さった様に記憶しています。当時私は班制度における人間関係の方に宗教的重点があるのではと思っておったのですが、自然の営み、そこに動く力(はたらき)そして、その力によって自ら現れてくる世界、本当に素晴らしい活動の場と接し方を学ばせていただいたと、今実感しております。

ここ数年の間、先生にお会いし、又お話しする機会はほとんどありませんでしたが、本当に自分にとって大事な時に大事なセッション(先生がよく使われた言葉)をいただきました。

ご葬儀にお参りし、一月坊守様(奥様)にお会いして、お悔やみを申し上げようと思いつつ玄関へ参りましたところ係りの方にすすめられついついお座敷に上り、そのまま堂内にてしみじみと今生のお別れをさせていただきました。ご家族のお悲しみの中でも、ひときわ坊守様のご心中如何ばかりかと拝察いたします。

先生のご生涯はスカウトを通して、親鸞聖人のお念仏に生きるということであったと思います。

今地球環境と、人間の合理的知性の破綻を目の前にしようとするとき、先生の、自然を舞台に人間のふれあいを求めつづけたご生涯に、多くの指針をいただくものであります。

合掌



〒511-04 TEL 0594-72-2269
 三重県員弁郡北勢町南中津原 754

田代 俊孝 たしろ しゅんこう

(大谷スカウト・BS京都第30団大谷大学RS隊OB)

「寂静の人」小川玄諦先生との出会いは谷大ローバーに入隊したときでした。静かな口調のなかに強い信念を感じ、そのときの私は、理屈を越えてスカウトの道の確かさを実感しました。以来、20年余、スカウトを知らない人から区々町々の厳しい意見と批判を聞きつつも、その道を歩んできたのはそのときの出会いによるものでした。実践的で、経験の上に作り上げられたスカウトの人間教育の理論と方法はその批判をはるかに凌駕しています。先生には、機会あるごとに今日までご指導をうけてまいりました。

中でも、思い起こす事は、1972年比叡山飯室谷にて近畿第8期の研修所を受講したときでした。所長であった先生はきつい急斜面の敷を小生の班サイトとして割り当てて下さいました。エンピをふるいつつ「試練」に甘んじました。後日、メガネの奥を細くしながら「よくやった」とおっしゃって下さいましたときは、深い慈愛を感じました。万事がそんな調子でした。

つい先ごろまで、名訓の資料、宗教ハンドブックの点検、特修所の再開、大谷スカウト指導者ハンドブックのことなど、しばしばお願いやご相談にうかがいました。しかし、残念ながら大谷スカウト指導者ハンドブックはとうとう未完のままに終わりました。

最後にお伺いしましたのは大谷スカウト関係の古いスライドの整理と説明をお聞きするためでした。その折り、いくども「後は…」「後は…」とおっしゃったことが、今も耳の底にのこっております。

キリスト教に基づく西洋生まれのスカウト教育を真宗をベースに真に「東洋化」したのは、小川先生のお力と言っても過言ではありません。その意味で「スカウト教育はいかなる宗教の上にも成り立つ」という普遍性を宣言したコペンハーゲン宣言に応え、それを自ら証明して下さいました。

今、この地上から大谷スカウトの大きな星が一つ消えました。しかし、その光は、悠久の輝きをもって大空高く、私たちスカウトを照らし続けてくれることであろう。光とともに いやさか! (三重北勢第一団団委員長)



〒603 TEL 075-493-2877
京都市北区西賀茂北川上町 40
塚上 公昭 つかがみ きみあき
(BS京都第38団OB・ちかいの式S47.1.1)

エエイ控え〜ィ この紋所が目に入らぬか！ この書をどなたの書と心得る おそれ多くも先の長休寺住職 小川玄誦先生の書なるぞ！ 皆の者 頭が高い控え〜ィ!!
昭和47年進級証の裏面より。

祝進級
玄誦

努力

忘れられない進級証が、本当の宝物になりました。



〒607 TEL 075-592-3840
京都市山科区安楽奥ノ田町 26-9
鶴田 茂一 つるた しげお
(BS京都第38団在籍・RS隊 隊長)

初めての出会い、----長休寺の応接間の一室、同期の鈴木、小川、の3名で、三羽カウズと命名され、お茶の床に足が届かない状態で足をぶらぶらさせてお茶を飲む。微笑ましい、顔を見ながら面談した事が、今でもよく覚えていす。

その後、----カグ(途中入隊だったと思...可...), ホイ、ジョー、ローバー、リーダー... 現在まで、特に現役時代をうらやま。小川先生の会話の中から、印象深、お言葉と書いて

- あせつやをためた子?
- あくはつ手段であら。目的が不明...
- 主体は、スカウト(子供)達である。
- suggestionを身えてやる。
- リーダー側の自己満足はダメ、

→ e.t.c
非常に短か、文面が、管束者としての役割が、想い出の一部分として、お茶の床に。"永遠のスカウト"、私自身もスカウト活動、出来の限り続けたいと思...可...。—三指—

＜想い出の写真＞ 「倉庫後の
1977.夏。 「2002」
阪キヤン70 (隊長 有鶴田)
本郷ガレにて。 (副隊長 本郷)





〒168 TEL 03-3322-7036
 東京都杉並区永福 1-25 16-112
寺島昌宏(清) てらしま よしひろ
 (BS京都第38回OB・小5以降・禮家)

早いもので、先生の御逝去より二か月半が経ちました。改めて先生の生前の御恩に感謝すると共に、御冥福を御祈り申し上げます。

私が先生の訃報に接したのは、亡くなられた次の日の3月12日の朝でした。前日は出張先の長崎にて、大型タンカー竣工式の前後祭で、遅くまで町に繰り出していたこともあり、ホテルの伝言には気付かず、家族の信用を一層失うこととなってしまいました。

それは兎も角、翌朝、訃報と葬儀等の予定を聞いた後も、その事が俄かには信じられませんでした。外見上は悲しさを隠さず、精神的にも若く、ワープロだ、何だど、我々中年顔負けの、昔から鋭い進取の精神で時代を先取りされており、特段悪いところも無かった苦悩のになどと思ひ巡らすうち、私のボーイスカウト入団が30年以上も前の事であることを思えばもう大変な御年であり、それにも拘らずハードスケジュールが苦しい性となって居られる事は以前より何となく気懸りでしたが、それがいきなり現実となってしまったのかと、浩々事象を認めて見たものの、今度は、今年の正月は次男の中学受験で東京に居たので会えなかった事、次回会った時には是非聞こうと思ひながら最早その機会を失ってしまった事など、あの時あおしておればと言ふ残念な思いが次々頭を過ぎり、暫時空転が続いた後、漸く大阪に向かう飛行機の手配を始めることが出来ました。

楊、私は、先生の思い出と言うよりも、私の心を日常的に強く支配している先生の印象についてお話ししたいと思います。皆様と少し異なる考えかも知れませんが、これも一つの物の見方として御話し下さい。それは、先生が『自然流』だと言うことです。これはあくまで私流の理解ですが、かつて力に頼ることが好きで、ハイクでも目標に向って道無き道を奮引に進んだりした事がある私が言うのもおかしな事ですが、この流儀は、その後の私の行動方式に強い影響を受けました。これは何でも出来るだけ自然に任せて放っておこうと言うことではなく、大変理論的なもので、ロープの結索を例に取ってみると、本に書いてある通りの結び方をするだけでは不十分で、ロープが引っ張られる力と方向を考えて結び目が締まる様に結ばないといけないとか、テントを立てる場合は、風の抵抗を考慮して合理的な角度で縦綱を張らないと駄目だ等と言うことです。つまり自然の音威にひれ伏したり、逆に、やたら流れて竿差したりするのではなく、極力音威は皆く敬し、利用できるものは最大限恵みとして受け取ろうという事です。私も教わって直ぐに理解した訳ではなく、山で、キャンプで、自然に連れ合いながら、徐々に納得していったものです。

これを人間社会に当てはめると、人の自然な心に逆らわない行き方と言うことになるのでしょうか。これは、長いものには巻かれろとか、権力に阿るとか、世を捨てるとか言うのでは無いし、自然任せで何もしないとすることもありません。つまり自分の考えをしっかりと持った上で、人の考えに真っ向から対決するのではなく、人の話を聞き、その考えの依って立つ所を理解し、その人の受け入れられる所から説得して行こうと言うことです。このため、自然流の人は外から見て大変寛容で近付き易い印象を与えます。私は、先生の温厚で近付き易い感じは、まさにこの所から来ているものと思います。しかし、別に自然流だからと言って、怒ったり、感情的になったり、何かにのめり込んだりする事があっても、おかしきはありません。規律を設けることは必要ですが、かんじがらめに規範に束縛されることは、自然ではありません。あくまで人間らしさを無くしたのでは、面白くありません。こういったところが、私の理解する所の先生の『自然流』です。以上、内容の説明が行き届かない上に、勝手に先生のやり方に『自然流』などと言う名前などつけて誤解を深めている感も無しとはしませんが、序にもう一段、私流の解釈を進めるとすれば、私にはこの『自然流』こそ、先生のスカウト指導のベースであった様に思われます。仮なりの解釈で理解した。この『自然流』を私もモットーにしていますが、言うは易く行うは難しの現状です。それでも、今後も先生の進取と泰然と諦念に近付けるよう頑張りたいと思います。



〒607 TEL 075-592-0145
 京都市山科区北花山大峰町 49-1
中川武 なかがわ たけし
 (BS京都第4回OB・元BS隊副長)

私とスカウト活動

ボーイスカウト活動を長くされていた小川先生は、団創立45周年を前に他界されことは誠に残念でなりません。小川先生とは、私が小学校入学時の昭和35年に38回カブ隊に入隊させてもらった時から、スカウト活動が始まりました。長休寺の禮家の、その関係でお世話になるようになりました。下鴨神社の近くに住んで居りましたので、集会や訓練の時などは糺ノ森で活動していました。キャンプやハイキングへ行ったり訓練はきびしくたいへんよい経験をしましたし楽しかったことも思い出として記憶に残っています。社会人になってもスカウト時代の経験が役立っていますし、機会があれば、スカウト活動を再開したいと日ごろから思っていました。4回OB会が発足されボーイ隊副長としてリーダーをやらせてもらい、励んでまいりましたが研修所を終了し小川先生のアドバイスや先輩スカウトの助言があってやってこられました。感謝するしだいでありませぬ。団創立35周年、40周年や玄諦ジャンボリーなど記念式典に参加させていただき、体験出来たことをスカウト活動をやってよかったと思っています。色々思い出がありますが人のつながりを今後とも大事にしてゆきたい、伝統ある4回OBのひとりとして協力できればと考えています。

みなさんの今後のご活躍とご健康をお祈りいたします。



昭和38年 舞鶴にて



〒116 TEL 03-3820-7609
東京都荒川区南千住 8-55-1 なぎさ寮

中西 浩 なかにし ひろし

(BS京都第38団BS・SS・RS・昭和48～60頃在籍)

小川先生が亡くなられたことを、五十嵐君からの電話連絡で聞いた時に、私はふと、「永遠のスカウト」の歌詞の四番を思い出してしまい、何とも言えない気持ちになりました。生前は大変ご無沙汰していましたけれども、やはり、もう先生にお目にかかれないのかと思うと残念です。

これから、私がサンパチにいる間に、先生にお世話になり、またご迷惑をおかけしたことも含め、先生の思い出を記したいと思います。

私が、先生のスカウトとしての存在が大きいことを初めて知ったのは、私がBS隊に入隊したばかりのころ、確か昭和48年の春に、先輩団である四団が、長休寺の裏庭で夜にかがり火をともしながら発団25周年記念行事を行なった時でした。この時に私は、いつも着物姿で裏庭掃除をされている時とは違う半ソデ半ズボンの制服姿の先生が、物静かな口調で話をされるのを初めて見ました。この時に持った先生に対する強烈な印象は、後になってもあまり変わっていません。

今まで先生と接した中で、私は一度大きな失敗をしでかしたことがあります。「由々しき大問題」ですが恥ずかしながら白状しますと、実はSS隊の時に、先生愛用の8ミリ撮影機を、サンパチ20周年行事の直前に故障させてしまったのです。同じ班のN君と一緒に先生の撮影機を借りて20周年行事で展示する予定の映像の撮影をしていたのですが、途中で機械が故障し、修理に出しても日数がかかると言われ、20周年行事そのものの撮影にも間に合わなくなってしまいました。この時ばかりは、先生に何と言って謝るか、思案に暮れてしまいました。結局N君のお父さんのはからいもあってか、先生に許してもらいましたが、20周年の行事の時は、先生は自分でカメラを持って多くの写真をとっておられました。あとで撮影機を先生のところへお返しに行った時に、先生はあまり多くは話されませんでした。「しかたがないなあ。」というような顔をされていたのを覚えています。(これで、20周年行事の8ミリフィルムが残っていない「謎」が判明しました。サンパチの皆様、ゴメンナサイ！)

私の場合、直接に先生と話した回数は他の人、特にサンパチの諸先輩に比べてかなり少なかったと思いますが、それでも先生の話や同僚の話が割と多かったのが、ちょうどBS隊のリーダーを2年間させてもらったころでした。ある時、何でもやりたいK君が多くのお稽古ごとに手を出して、時間の調整ができなくてボーイを続けるべきかどうか悩んでいたのも、みんなで先生の所に連れていったことがあります。その時の先生の言葉は、「風呂敷の一点を持ち上げれば、まわりも持ち上がるように、一つのことに専念しても自然に他のことも身に着くものだよ。」でした。

最後になりましたが、先生のご冥福と、サンパチの栄光を祈念いたします。



〒616 TEL 075-881-7460
京都市西京区嵐山山下町 30-28

中村 三之助 なかむら さんのすけ

(BS京都第38団在籍リーダー・北山地区副コミ・L.T)

今、この原稿を書き始めて、ふと不思議な思いを抱きました。それは、小川先生がお亡くなりになったという実感が抱けないのであります。まだ、長休寺に行けばすぐにお会いすることができるという感じで、数か月が過ぎた今も先生の存在感は変わらないのだと思った次第であります。

私がボーイスカウトに入隊した当初(30年前)は団委員長であられた小川先生の存在がどうでどんな方かなど全く知らない中でいました。ただ、団や隊のセレモニーで、また進級時の面接会で小さな声でお話をされる姿しか知りませんでした。その後、私自身「わっ、すごいな」と感じた初めのきっかけがありました。それは、班長をしていた頃、班訓練で結索法を長休寺の裏庭でやっていた際、先生が来られ、角しぼりのやり方でうまくできる方法、ポイントを教えていただいたことがあります。その時「お話だけでなく、技能もできるんやな」と今から思えば失礼な思いを抱いたことが思い出されます。まだ、我々の頃は、先生の制服姿は常で、まだまだ現役の「おじちゃんリーダー」という印象が強かったです。

その後、さらに「すごいな」と感じたことがあります。それは、ウッドパッジ研修所に参加したとき、所長は小川先生でした。所長がそんなにえらい、大層なものとは知らなかった自分は研修所での小川先生の言動の一つひとつからしみじみと先生の偉大さが実感されてきたことに気がきました。

その後、リーダーとしてやってきたわけですが、リーダーをやり始めた時にプログラムのことややり方について先輩リーダーの末吉氏によく相談させていただきました。その時、必ずおっしゃったことは「小川先生にも相談するように。またええ話が聞けるから」でした。確かに、今思えばすばらしいアドバイスをいただいていた。先生のお話の特徴は、聞いてすぐにはなかなか理解できないものがたくさんありました。しかし、後になってみて「あっ、このことやな」としみじみと分かってくるのです。

まだまだ、お聞きしたいこと、お教えいただきたいことが一杯あったのに本当に残念です。これからは、先生の教えを受け継ぎ伝えて行きたいと誓っております。これからもお導きください。 本当に ありがとうございます。



〒605 TEL 075-561-4747
京都市東山区東大路松原上る四丁目毘沙門町 26-3

中山量之 なかやま かずゆき

(昭30年北斗地区一級訓練以来のスカウト師匠・B S京都第27団)

1 先生との出会い。

(1955) 昭和30年の春、

当時中学2年の私は、早く一級になり、日本連盟の名誉スカウト特別訓練を受け、海外派遣に挑戦したいと思っていました。団とは言わずに隊と言っていた頃、自隊には、一級課目や技能章の取得について、アドバイスを与えてくれる先輩がいませんでした。誰に聞けば、誰に教えられるか良いのかも分からず、困っていた頃、新聞で地区の水泳章のテストが【宝ヶ池】である事を知り、テストを受けた事を思い出します。当日、実技は合格でしたが、面接は再考査と言う事で長休寺を訪問したのが先生との出会いでした。静かにアドバイスをされる先生との出会いで、自分にも多くの仲間があり、独りぼっちでは無い事を実感しました。27団初代隊長は発団後間もなく郷里の事情で九州に帰られ、育成会も知恩院に移籍し、職責上の指導者が一年間隔で就任される状況でした。団も一時は私一人の時が有りましたが、初代隊長の言葉を支えに活動を続けていた頃です。私にとって、先生は【何でも相談し、教えてもらえる】人でした。恥ずかし事ですが、こんな質問もしました。「先生、野鳥ってどんな鳥を調べればいいのですか?」。一本線・二本線(野帳)での書き方を教わりました。未だに、この話は自団のスカウトには聞かせていません。

2 野営生活の教訓

(1955) 昭和30年の夏

一級訓練の結果、山中野営場での【名誉スカウト特別訓練】に参加しました。

以後【年長隊富士野営】と呼ばれ、毎年、団からシニアスカウトを派遣した事を考えて頂ければ、如何に感動的な出来事だったかは承知して貰えると思います。

土曜日からの桐生での一級訓練キャンプで ㊤飯は葉に盛り ㊦湯は沸くほどに ㊧故無く留るな ㊨自然に返せ、等の松風に通ずる教えをいただきました。

3 躰の訓練

(1964) 昭和39年の夏

第13回京都キャンボリー北斗地区大会が礼の森で開催され、先生が野営長をされました。地区として初めてのキャンボリーで、多くの点で先生の指導があり、CS部門のゲーム・SS部門のバイオニヤリング・宗派別の日曜礼拝等が実施されました。

先生は常に具体的な指示は避け、啓示的な助言をされました。規律についても非常に厳格で、身づからが範を示された事がありました。期間中、38団の無断外出に伴う団委員長としての先生名の始末書は、今もって、私の室です。

4 先生はとも、素直では無かった様です!。

(1964) 昭和39年

27団に小川陽と言うシニアがいました。彼が単に挑戦した時、先生は信じられないぐらい、懇切丁寧に【単スカウト】についてお話され、声まで優しかったので

先生にお聞きしたら、「名前が息子と同じだからね!」と言っておられました。

ある日、長休寺でのラウンドテーブルで、第4団B S隊隊長であった渥君が、昨夜、先生と激論を交わして、辞められた事を聞きました。本当に先生はぶきっちょですわね? 葬儀の日、渥氏と故父との深い縁を目の当たりにしました。再度、渥氏とスカウト仲間としてお会い出来ればと思います!

5 ポエーン

(1965) 昭和40年の秋、

自団のカブ隊発足以後、父兄会を開催するにあたり、先生に出席を依頼しました。先生は、父兄会でお話しをされ、父兄の協力を強く求めて下さいました。その後副長やデングットへの就任等、父兄の協力が得られました。先生は27団父兄会の生みの親と言えます。

(これ以後暫く、先生のお話しの仕方が変わり、困惑したことがありました。)

① 27団カブ隊力作のカブ舎営の実施要項を見て頂くと、『実施要項が不必要にならねばねー!』: やおら、自室に戻られ、大事そうに自団のカブ隊舎営の写真を部屋に持ってこられた。「中山君、これが私の理想のカブ隊だよ!」

② 知恩院でスカウトルームを開設しようとの話があり、相談すると『団ルームはスカウトに不必要だよ!』(既にハウス長休はありました。) その直後、自団の団委員会の皆さんに紹介して、『ハウス長休について、お話しを聞きたいそうです、宜しく!?』

この時期の先生の態度は、今も私の中に生きています。残念ながら、愚鈍な私には先生のポエーンが理解出来るのに、数ヶ月以上もかかりました。

6 先生の行動

① 先生が京都連盟から決別すべく、昔からのスカウト仲間にお手紙を出された。先生の本意はスカウト運動は、その規範が「ちかい」で有り、「おきて」の実践が、その存在で有るとの、ポエーンではなかったかと思えます。

② 決別の後も、連盟に宗教委員会を設置しようとの機運が盛り上がった時、先生はスカウティングが信仰心の発芽と、明確な信仰を持つ人の育成に役立つ事を委員に問いかけられ、多くの掲示を与えられました。僧衣をはおらない僧侶、明確な信仰心を持つスカウトの誕生を信じておられました。生涯を通じて多くの指導者を育てられた先生を師と仰ぐ者は多く、先生は常に後継者の育成を力説されていました。晩年は、自身で育て育まれた団と共にあり、幸せを実感されていたと思います。又団の方々も、先生を大切にされていました。お別れの日、若いリーダーが『先生、有り難うございました。』と大声で別れを惜しんでいるのを目撃し、感動いたしました。

7 感謝

先生は私にとって隊長であり、人生の師匠であります。今迄も、お考えを大切に実践する事に努力を重ねていました。これが私のありようで、ポエーンを忘れることなく、来世でお目にかかった時、お叱りを受けぬよう努力するつもりです。最後に、御子息・小川渥(渥)氏より、故父君の思明けのお手紙を頂いた時、末吉央伯氏より、【想いで集】出版のお知らせと寄稿依頼がありました。先生を師と慕う諸氏が、合い図り【想いで集】を出版するに際してのご連絡、深く感謝いたします。

先生の足跡を追跡出来ることを楽しみにいたしております。 合掌



〒227 TEL 045-962-4892
 神奈川県横浜市緑区たちばな台 2-4-16
西川 和幸 にしかわ かずゆき
 (昭和22年~29年BS京都第4隊在籍)

昭和22年春頃か、私の通っていた下鴨小学校の武田先生(後にBS第四隊長)によって一方的に選ばれた何人かの5年生仲間と長休寺を訪れたのが、小川先生との初めての出会いであった。

小石(銭)廻しや、教えられたばかりのゲームに興ずるわれわれを観察することが、小川先生による入団テストだったらしい。

琵琶湖の小松ヶ里での例年のキャンプ、昭和24年戦後初の皇居前広場での日本ジャンボリーのための東京遠征など、小川先生と共にあったスカウト活動は私の脳裏を離れない。

昭和29年、先生に命ぜられ、弟隊の19隊の面倒をみることになった。

昭和43年、父(戦前、中野忠八先生のもとでBS活動をしていた)の葬儀では、お導師を勤めていただいた。昨日の事のように。

十数年前、東京のBS・OB会でお会いしたのが最後になった。

今年のお正月には自筆のお元気な年賀状をいただいたのに。一昨年GSの一期生、樋口雅子さんにつづいて今また先生の訃報に接し、悲しい限りだ。憤んでご冥福をお祈りしたい。
 合掌。 <1993-5-15記>



日時：1948年(昭和23年)某月某日早朝(秋か?) 場所：東本願寺境内 目的：法要時の有志による奉仕ユニフォーム未だなし。後列右から2番目が小川先生。前列中央 西川(中)

前列
 小川和幸(中)
 山田中一
 山田中一
 山田中一
 山田中一
 山田中一
 山田中一
 山田中一
 山田中一
 山田中一

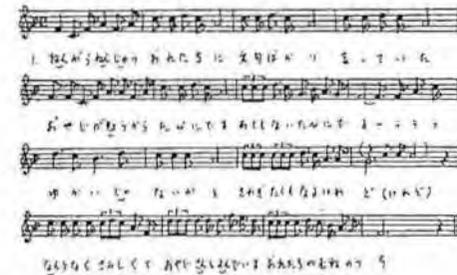
後列
 小川和幸(中)
 山田中一
 山田中一
 山田中一
 山田中一
 山田中一
 山田中一
 山田中一
 山田中一
 山田中一



〒915-02 TEL 0778-43-0159
 福井県今立郡今立町定友 2-9
西野 哲夫 にしの てつお
 (BS京都第30団大谷大学RS隊にて指導を受ける・ALT)

山のおやじさん

岡本正樹 作曲



1. 年から年中 俺たちに 文句ばかりいっていた
 親父が今日から旅にでる あてもない旅にでる
 ラララ
 ゆかいじゃないかと さわざたくもなるけれど(けれど)
 なんとなくさみしくって 親父さんと呼んでいる
 俺たちの胸のうち
2. 親父のあとから俺たちは どこまでもついてゆく
 向山にえて 河にえて 親父さんのいくところ
 ラララ
 うるさい奴らと 親父さんは言うけれど(けれど)
 シワのよったおデコと ツルツルの頭が俺たちに笑っている
 俺たちに笑っている

谷次RSは、小川玄澤先生のうただと勝手に思ってたっています。

先生にお会いしたのは77年。大谷大学ローバースカウト隊の新入生歓迎コンパの席上のこと。会も終盤、スカウトソングで盛り上がり振付きソングも出てきた。ええぞ、ええぞ、歌え、踊れ、てな調子で、無礼講じゃ、無礼講。ではここでいつものうたを。

月シワのよったおデコとツルツルの頭が俺たちに笑ってる月
 先生は女子学生にはさまれて少し照れたように、眼鏡の奥の目をほそめてやっぱり笑っておられました。

ほんとうに旅立たれた今、歌のとおり、月なんとなくさみしくって親父さんと呼んでいる月私の心です。先生ありがとうございました。



〒602 TEL 075-441-8954
京都市上京区新町通寺之内上る道正町 439

西村 泰一 にしむら たいいち

(BS京都第38団在籍・育成会長・三人の子供がお世話になった)

先生との思い出は協議会、団委員会など会合はもとより新年会、各種行事等々、特に長男の結婚披露宴にはご祝辞をいただいたことなど、25年にわたりご指導を戴き良き師であったと思いはつきません。

昭和51年夏38団ボーイ隊が淡路島洲本の広陵地でキャンプを行った時、先生が視察されるのにご一緒させていただいた懐しい思い出がございます。

輸送を兼ねて1トトラックで先生を横に乗っていただき、陸路、海路、陸路と数時間をかけて現地へ参りました。

隊長鶴田君、副長本多君、本部に角井さんが応援して下さいました。

先生は各サイトを隈無く見て回られ、テントの張り方等をわかり易くスカウトにアドバイスされ本当に生き生きと楽しそうにされておられました。

夜はテントを共にいたしました。先生は簡易ベットを持っておられて楽そうに寝ておられました。『そなえよ常に』だなあと羨ましく思っておりました。

翌朝になって朝の集いの時、突然「西村さんスカウトに何かお話しを」と云われ慌てたことを覚えています。これが私の初めてのスカウトの前での話でした。内容は記憶しておりません。

先生は先にお帰りになり、私達は洲本第1団(高野山真言宗派)にキャンプ地についてのお礼に参りましたところ、そこの方が小川先生には実習所で大変お世話になりましたとの事で西瓜を数個下さいました。

皆で『先生でこの世界では、黄門様の様だなあ。』と嬉しくなり先生に感謝いたしました。

この他、数々ございますがこれで私の思い出とさせていただきます。

合掌

西村 泰一



写真は昭.4.6.お花見会の締めくくり「一日の終わり」歌の輪の中の小川先生。



〒602 TEL 075-431-4479
京都市上京区大宮寺之内上る二丁目仲之町

西脇 香代子 にしわき かよこ

(BS京都第38団在籍・団委員・三人の子供がお世話になった)

先生との思い出と申し手と息子のボーイ隊に上るとお母様方が
ハロウィンのお掃除朝に1度お掃除に来られたに因りました。
お掃除が終ると班長、次長のスカウトのお母様がお茶をご用意
して下さいお母様方の情報交換のような井戸端会議の様な
ものをして下さいました。

その中へ小川先生をお呼びして先生がお看物をお返しに下さり現わ
れるシーンと静まりそれから先生のお話しが台座の事です
先生独特の口調と申し手と、振る舞いお話しが声とスカウト
の云々、教育云々……お話しは心相違いお話しに来られた方の話しが
多ければ、育成以上で大へんお勉強の通り、先生は団に真剣に耳を
お貸し下さいました。

- ・今は親の老いに手をかける。
- ・子供も勉強は、塾だ、クラブと忙しかる。
- ・大人が作るのがよいと立派にする。常にスカウトにいい名のと
のキョウに準備する。

お話しを聞けば、お話しが作ればよい

ロープがなければ山にあるかたをば使えばよい

不便の中は工夫が生まれる

- ・人を指導することはできない……等、思い出です。

今は、お話しが小川先生に因りました。皆夫の思い出の中で先生
の御教文は大丁に因りて永遠に生き続けることとあり申し手。
と、し、す



〒319-12 TEL 0294-54-1377
茨城県日立市石名坂町 1-19-5 203

服部 憲一 はっとり けんいち

(BS京都第38団OB・入団以来ヤンチャをして迷惑をかけた)

藤 棚

長休寺の裏門を入ると左側に藤棚があります。今は藤も大きく育ち春には見事な花を見せられますが、その藤が初めて長休寺に来たのは私がBS隊の時でした。当時は幹も細く、丸太を組んで作った小さな棚にちんまりと収まっていたのですが私はある日、棚の丸太にロープをかけて中央からぼきりと折ってしまいました。折も折、班集会でハウス長休のガラスを割ったりいろいろ注意されていたので謝りに行くのが辛かったのですが先生は「そうか。」とおっしゃって怒りもせず折れた藤棚をロープで補修されていたのを覚えています。結局その日は棚は直らず、数日後に新しくなりました。

今住んでいる所の近所には野生の藤がたくさん生えています。藤棚ではなく、太木にぐるぐる巻いて高い所に紫色の花を咲かせているので一見他の木のように見えます。春、藤が咲く頃になるとあの折ってしまった藤棚と、何を言うわけでもなく教えて下さった小川先生を思い出します。



〒651-11 TEL 078-594-3277
兵庫県神戸市北区甲栄台 5丁目13-14

原田 彦和 はらだ ひこかず

(BS京都第4団・元育成会長)

「小川先生から学んだこと」

小川先生のスカウト歴が60年余と拝見しましたが、私自身を振り返ってみるその三分の一近くをお手伝いさせていただいたことになる。

その間四団にも山あり谷ありでいろいろなことがあったが小川先生が外見温厚な風貌ながら内には不倒不屈の闘志をもって乗り切ってきたお姿を拝見して何かのお役に立てばと思ってお手伝いを続けた次第である。

最初は息子がスカウトとしてお世話になったが、先生の人材育成法を拝見して私自身がそのファンとなり、先生のスカウト指導方法から沢山のことを勉強させていただいた。その中で私が最も感銘を受けたのは

「一人歩きの出来る人間になれ」

と教えてこられたことである。簡単な事に思えるがよく考えてみるとなかなか難しいことである。自分の目標は自分で探し、方法を自分で考え、それを自分で実行する能力を身に付けること。その過程での失敗、挫折はあってもそれを乗り越えることがその人の将来に大きなプラスとなると教えられました。

社会人になっても職場にあつては上司、家庭にあつては親の命令や保護がなかったら何をしたらよいのか分からない、そして何も出来ない、今風に言うなら「支持待ち人間」が如何に多いことか。

今や世界の中で先進国に仲間入りした日本には見習う国はなく、全ての面で独自の道を切り開いていかなければならない。そのためには日本の将来を背負う若い人が創造的開発能力を養うことが必要であると思います。

今までの日本の学校教育は基礎教育としては評価されるが画一的規格人間をつくる弱点のあることを早くから指摘されたことは敬服すべきことである。

過去に於て長休寺スカウトとして小川先生の教えを受けた人、現在スカウトである人達がこの偉大なる教えを無にせず社会に貢献していただきたい。



〒615 TEL 075-871-6709
京都市右京区梅津上田町 6-77

堀場 眞造 ほりば しんぞう

(スカウトリーダー 1年生担任の先生・京都第13団在籍)

今は昔、昭和27年 桜地区が発足 翌年、私が京都第13隊に入隊 北斗地区になったのが昭和29年。
第1回N・J 軽井沢が昭和31年 上原
第2回N・J あいば野が昭和34年 副長補
昭和35年6月8日～12日 第40回京連指導者講習会 於 長休寺 主任講師 小川玄諦先生
昭和36年4月 第13団少年隊長(21歳)
同年7月12日～昭和37年4月2日迄 北斗地区指導者研修会 於 長休寺 小川先生主催

当時は長期間それも資料らしきものは少なく、先生自身の手作りでした。
大変ご苦労されたと存じます。4団本部へはよく通いました。

第3回N・J(アジアJ)朝霧高原、昭和37年を終えて8月21日～26日 東海第6期実習所(岐阜・郡上八幡)

と、まあこんな調子ですから、実に私がスカウターとしての第1歩が先生との出会いであります。あの独特の低い語り調子に一生懸命、耳そばでたました。ソングは私の方が上手でした。

札の森キャンボリー経験者の一人として先生からの訓育は今も生き続けているつもりです。我が13隊(昭和25年10月発隊)準備隊の審査に、八木、桐山、相川各先生と小川先生が金光教四條教会へ来られました。暑い夏日だったそうです。先生が堀井直清隊長に「ボーイスカウトは軍隊とはちがいますよ」と言われたそうです。思い出話のいろいろが書けなくて申し訳ありませんが、こんな古い奴もまだ頑張らなくてはと思っています。

お通夜の時、頂きました「ちかい」生涯大切に致します。少しでもご恩返しが出来ますようにどうぞお守り、お導き下さい。

合 掌



BS少年部指導者養成講習会 昭和35年6月8日～12日 於 長休寺(この写真の場所に現在プレハブが建つ)



〒610-01 TEL 07745-4-0644
京都府城陽市平川広田 27-12

細 圭子 ほそ けいこ

(先生との関係 一期一会・ALT)

あれからもう7年近くにもなります。小川先生のことをよく耳にするようになった時分に開催された、玄諦ジャンボリーに参加して「あっ、あの方が小川先生!」と、本当にびっくりしてしまいました ——。

それは、私がまだ若葉マークのリーダーの頃の、5～60人も集まったある講演後のパーティでのことでした。

全員の自己紹介も終わり歓談の時間になった時、ずっと前の方の席にいらっしやった一人の老紳士が回って来られ、隅っこで小さくなっている私に話しかけてくださいました。驚いたことに、私の自己紹介の事を話題にされたのです。私はといえば、自分の番がすんでほっとして、誰がどんなことを話したか顔を覚えるどころかうわの空でしたのに。その時私は、後輩への接し方にも人格の現れることをしみじみと教えられました。

心に深く残っていたその老紳士が、小川先生だったのです。

ジャンボリーでは、一緒に参加していた息子が丁度20才の誕生日で、プレゼントつきで皆様に祝っていただきました。後で、先生に息子の育て方をほめて頂き、とても嬉しかったのを覚えています。

それからしばらくして、月の輪組の集会の計画を持って先生の家を訪問する中川さんにおねだりしてついでに行き、そばで話を聞かせていただきました。

その後の、一つひとつ例をあげての実践的なスカウティングの話に夢中になって、おいとまするのを忘れてしまうほど長居をしてしまいました。

本当はもっと何回も何回もお伺いしたかったのに ——

でも、私にとってあの時のお話は心の宝です。



〒830 TEL 0942-43-4904
 福岡県久留米市御井町 536 永福寺
阿 聰 子 ほとり としこ
 (大谷スカウト・GS福岡第5団・親戚になり早くからGSに係る)

私は昭和12、13年頃ガールガイド、ガールスカウトの本を先生より読むよ
 っに言われ、常葉幼稚園で発団致しました。今のようなガールスカウトの組
 織もなく、ただボーイスカウトの本や歌集等を参考にしてやっておまし
 た。常葉幼稚園は私の祖父が始めた幼稚園ですが、父が早逝致しましたので、
 親類の方達から援助を受けて続けておりました。ボーイスカウトも幼稚園
 で集会をしておりました。



ガールスカウトとして発団当時 於 常葉幼稚園 (昭和14年頃)

夏は、琵琶湖の北小松にキャンプに行き一週間近くおりましたかと思
 います。本部を中心にボーイとガールが別れてキャンプしておりました。今
 のような施設も何もなく、松林の中でトイレから作っておりました。朝には琵琶

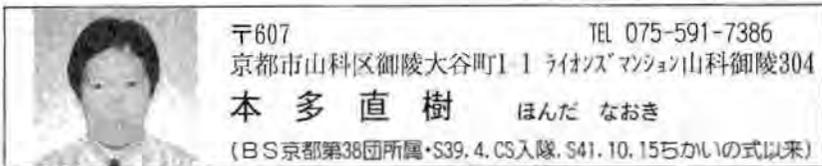
湖でとれた魚を分けてもらい、野菜もお米も近所に買い出しに行きまし
 た。先生が和船をかりて乗っておられますと、ホーイの人達が潜って船を沈
 めようなんて言っていて騒いでおりましたことも思いでの一つです。



ボーイスカウト10周年記念写真

昭和16年平安神宮に於いて京都市全体のボーイスカウトの解散式があり
 ました。戦時中横文字は禁止になり、後に健児団となりました。私も昭和18
 年3月には九州に縁付き、遠い所で連絡もとれなくなりました。

昭和32年、東本願寺に於いてガールスカウト指導者養成講習会に参加、昭
 和33年、福岡5団として発団し現在に至ります。その間、大谷名誉奉仕訓練に
 度々参加させて頂き、その度に先生にお目にかかり、昔の思い出話専致しま
 した。本年は永統35年になりました。これからは体に気をつけて、先生の思
 い出を胸の中に命あるかぎりスカウト運動を続けて行きたいと思ってお
 ります。



〒607 TEL 075-591-7386
京都市山科区御陵大谷町1-1 ライオンズマンション山科御陵304

本多直樹 ほんだ なおき

(BS京都第38団所属・S39.4.CS入隊.S41.10.15ちかいの式以来)

三指

私と小川先生との出逢いは今を去ること30年程、昭和39年4月のことでした。長休寺の桜が美しかったことを覚えています。私は小学校の3年生、母方の知合いのお口添えで小川先生を紹介していただき、サンパチのカブ隊に仮入が決められました。しかし、私の当時住んでいた所が修学院で、通うのに余りにも遠かったものですから近くの他団に行っただろうかというお話しもされました。しかし、どうしてもその気になれずほとんど無理やり入隊させていただきました。

お寺の近所でない私が、全く顔も名前も知らない仲間のところへやってきたものですから、入隊して間もない私に、「どうだ、友だちはできたかい。」と声をかけていただきました。それに対し私は、「はい。みんなと友だちになりました。」と答えたところ「それは良かった。」と、私の頭に手をやって微笑んで下さったこと、集会には自転車で行くこともあり、その都度、先生には多大な心配をおかけしていたのですが、帰宅するときにはいつもやさしいまなざしで「気をつけて帰るんだよ。」と言って送って下さったことなどが昨日のことの様に思い出されます。

カブ隊のときには私の母もDMとして活動してしまして、先生も“デンカーチャン”“デンナーチャン”と親しげに会話をされ、カブ隊の活動はとても華やかな？(隊長も秋月さんで女性でした)時代だったように思います。さぞ先生も楽しく活動に参加されていたことでしょう。

その後、私はボーイ、シニア、ローパーと進み、20歳のころから十余年リーダーを務めさせていただきました。リーダー時代、先生の所へは、プログラム計画等大小関係なく、よく相談に行きました。そのときにはいろいろと示唆していただけなのですが決して結論はおっしゃいませんでした。「実践躬行し、失敗を重ねていき切磋琢磨していく」ことの大切さを様々な機会を通して考えさせられていたような気がします。

先生は会議等の最後のお話しに、いつも自分自身が隊長を初めてされたころのことができてきました。そのころと比べ少年たちの自主性が少なくなってきたことを心から憂いておられました。その原因として、あくまで隊長は安楽イスにいつも座っていればいいんだが実際には座っていないのではないかな、とおっしゃっていました。もちろん表向きは安楽イスに座っているようでも裏ではしっかりスカウト諸君を支えていて、イザというときにはその“ウラの手”を出せるようにしておく。このことが最近ではできておらず、ややもすればリーダーが先頭に立ってスカウト達を指導しているのだと、嘆いておられました。私たちもそのことがわかっているのも仲々そうはできず早い目早い目に口や手を出してしまっているのが現状でした。先生のいろいろなお言葉を肝に命じて、今の教職の仕事は今後も追及していきたいと思っています。

また、私は個人的にもいろいろ心配をおかけしました。その一番が結婚についてでした。先生にも多々お氣遣いいただきました。ようやく昨年の11月に結婚することになり、その報告に行ったときは心から喜んで下さいました。そして、式ではメインゲストとしてお話しをしていただきました。この結婚式が先生にとっては最後のものとなってしまったことは私にとって感慨深いことになりました。ご存命中に結婚の報告ができたことを本当に良かったと思っています。

小川先生、たくさんのお教えいただきどうもありがとうございました。安らかに眠りください。ご冥福をお祈りします。

台學

〇玄諦ジャンボリー参加に際して
作った 小川先生に捧げる カエ唄 (玄鑑先生のフリマ)

1. 寺町通りを チョット行けば 線香 3333 小川 先生 お経ととほりゃ 木原 ぼる ほかほか 長体の本堂に ヒカッテ	2. パソコン あやがる チョット ナライ ハイア 坊主の 小川 先生 スペインー とほせば 風が ぼる ぼー ぼー 先生の背中に 微笑ます
3. ハウスの小部屋を チョット あけて 「君たち」をいれてました 小川 先生 先生の アドバイス ヒカッテ ヒカッテ サンパチスカウトの 羅針盤	4. 夜中の会議を チョット のみま アッコ 指ト消す 小川 先生 アッコ 笑顔に アッコ ある ニコニコ 先生の言葉が 身にしみる

↑シニアスカウト隊作成の小川先生に捧げた替え歌
-昭和81年11月2日玄諦ジャンボリーにて-



「初めの言葉は
は難い一番大切
ふと息どろお母
様も大切！ 仲以。」

↑平成4年11月8日国立京都国際会館にて
(先生にとっては最後の結婚式でのスピーチとなった)



〒633-21 TEL 07458-3-0043
奈良県宇陀郡大宇陀町西山 164

増岡 清史 ますおか きよふみ

(玄詒先生BS門下生・BS奈良県連盟副連盟長)

小川先生に教えられたこと

小川先生と私の出会いは、昭和41年8月、私の住む町、大宇陀町五貫山で開設された、近畿地方実修所少年部第10期に始まります。

奈良県連にとりまして実修所を開設するのは初めてのことでした。それだけに、どんな場所がよいのか、さえもわかりませんでした。そのなかで一番わからない私が「自分の町に200㌔」ほどの町有の原野ある。そこならいくら木を伐ってもかまわないし、開拓も自由だ」と候補地をあげ、それをブロック会議に提案、現地視察したところ真っ向から反対されました。

その場所は、ピシッリ篠竹に覆われていて踏み込むこともできない状態で、反対されるのは当たり前でした。候補地を推断した、私としていまから思うと“冷汗”ものです。結果的には、所長の判断、ということになって、所長でお出になったのが小川先生でした。

現地をご覧になった先生も、さすがに驚かれた様子でしたが「ここで実修することが、よしプログラムとおりに運営できなくても、指導者にとって恵まれた環境以上の得難い体験になるでしょう」と五貫山での開設に踏み切ってくださいました。ここを「五貫山道場」と命名されたのもそんな意味がこめられていたのだと思います。

地元出身の故から私に本部奉仕を命じられました。そのため、開設期間中終始、先生のお側で過ごしました。そのお陰で昭和38年、始めて私の町に団ができ、行き掛かり上なんとなく団委員になっただけで、奨制度や進歩制度の意味さえわかっていない。“お父ちゃんスカウト”の私が、先生からスカウティングの手解き得る機会に恵まれました。どんなことでも、生地のないものに理解させることは手間のかかることです。先生にとって随分、まどろこしくご迷惑だったはずですが、懇々と教えてくださいました。

スカウティングとスカウト技能(ウッドクラフト)とのかかわりの大切さを教わったのもそのときです。始めてバックスプライスを試みる私に「これを使うと楽ですよ」と竹を削ってスパイクを作ってくださいました。それには、万年筆で「静思施行 玄」と書かれていました。以来、その竹のスパイクは、コースでの奉仕をはじめ、スカウト活動のたび、いつも持ち歩いていましたし、おぼろけになったときご遺族に実物をご覧頂いてお礼申し上げます。

このときの先生の教えが、私を結索や語地図、キャンプ技術、はては革細工にのめり込ますことになったのです。つまり、先生は「実践修行」を教えられたのだ、と思います。スカウト技能は、スカウティングを達成するうえでの方便であるにせよ、野外活動を基盤とし、その楽しみを少年た



篝火夜話をされる先生(近畿地方実修所10期)

ちに伝えようとする、指導者がスカウト技能に通じていることは、指導者としての条件である、と思います。

最近、とかく理論が先行してスカウト技能が疎まれる傾向にあるのを感じますが、残念なことです。

いま、先生のことを思いますとき、そのことを強く感じてなりません。



〒606 TEL 075-791-4059
京都市左京区下鴨蓼倉町 72-14

三浦 正 みうら ただし

(BS京都第4団在籍・育成会長・北山地区協議会長)

『小川先生を偲ぶ会』を終わって

三指

幾多の先輩方を差し置き、役目柄ご挨拶申し上げる事をお許し下さい。

昭和47年次男をカブ隊へ入隊させる為に長休寺を訪れ、初めて小川先生とお会いして20余年。その間先生の御指導を頂戴し、お勧めにより地区役・連盟理事・育成会長等スカウティングのお手伝いをさせて頂いて参りました。

スカウト経験のない私にとって、先生のスカウティングに関する一言一言が新鮮で楽しく、息子が団を離れた後も人生の師として本日まで楽しい時期を過ごさせて頂きました。

その間四団25周年記念キャンプに参加して以来5年毎の記念キャンプにお手伝いをさせて頂き、今回45周年記念に当たり、昨年夏以来小川先生と一緒に式典・キャンプ等の企画を練り着々と計画をして参りました。

『小川先生と語る会』としての企画に殊の外お喜びになり、過去の資料等の話をそれは楽しそうにお話になり、先輩諸兄姉とお会い出来る事を楽しみにしておられた先生を想いだし『偲ぶ会』への名称変更をせざるを得なくなった事に唯々残念の一言でありました。

毎月の団委員会では笑顔を絶やす事なく諄々と諭される様な語り聞きはれて、笑いの中での会議が常でした。

我々の心の中に常に先生の教えを帯し、スカウティングに奉仕をする事をお誓いして、先生のご冥福をお祈り致します。

弥栄



〒603 TEL 075-231-2057
京都市北区寺町鞍馬口下ル西入ル 285

水野正己 みずの まさみ

(BS京都第38団OB・1960.8.25のちかいの式以来の恩師)

スカウト小川玄諦先生の足跡

はじめに

筆者は、小川先生のライフ・ヒストリーを通してみたボーイスカウト運動の展開過程を記録にとどめておきたいと考え、1988年の8月に先生から貴重なお話を直接お伺いする機会を持った。その後、関連資料の収集も手掛けたため、聞き取り作業の方は遅々として進まないまま今日に至り、結局、ライフ・ヒストリーの再構成は永久に未完の試みとなってしまった。

現在のところ、聞き取り作業の不徹底、筆者の力不足、紙幅の都合等により、聞き取り結果のほんの一部分しかお伝えできず、残念の一語に尽きるが、以下では、先生がスカウトの道に入られた契機を中心に、聞き取りメモを整理して報告する。

1 1930年という年

小川先生のスカウト歴を尋ねると、それは昭和戦前期に遡る。その中で特に重要な時期は1930年(昭5)から1933年にかけてである。先生が丁度18~21歳の頃である。「父親が早く死に、生活困窮の中でこんなこと(スカウト活動)をやってきた」と、先生はよく口にされた。これが正に1930年、先生が18歳の時のことである。同じ年に、BS界の大先輩である中野忠八氏の説くスカウト活動に触れる機会があったことも看過し得ない。

先生が実際にスカウト活動に参画されるのは、大谷大学専門部に在学中の1931年(昭6)のことであった。同大学では、「2年先輩の日野がスカウト活動をやっていたので、それに引きずられてボーイスカウト活動を始めるようになった」という。そして、同年4月に宣誓式が行われている。先生は、「子供と接し、子供と遊ぶことが(当時)最も安上がり」の余暇活動であったように述べられたが、このように子供と向かい合う実践の中からスカウト活動に参画して行ったのである。

もちろん、この頃は、ボーイスカウトの呼称はなく、健児団活動と称されていた。そして、先生は1931~32年(昭6~7)にかけて、大谷スカウト系の健児団の複数の団の設立に尽力されている。それは、32年9月(昭7)の大谷健児団連盟(大谷スカウト母団)の結成をもって、戦前期のピークを迎える。

2 戦時体制下に運動を決意

先生のスカウト活動への第一歩は、以上のように大谷健児団活動を通じたものであった。つぎに、その活動から運動への転換について触れてみたい。先生は、ご自身が一生をスカウト活動に捧げるように決断されたきっかけを、1933年(昭8)に琵琶湖畔で行った野営、とされている。この野営中に「やる以外にない」という気持ちになり、その後も夢中で取り組んできたという。しかし、実際には、子供から教えられることの方が多かったと、正直な感想も述べられている。

さて、この野営については詳細な聞き取りを行っていないので、現在は詳述できない。しかし、これが直接的契機であるとすれば、やはりその背景としての戦時体制下という社会情勢も、先生とスカウト運動との関わりを考える時に、非常に重要な要素のように思われる。

3 もうひとつの条件：職業

先生はご自身のスカウト活動を振り返って、「坊主やからできた」という気がしているという言葉を口にされていた。1949年(昭24)に本願寺の勤めを辞し、いわば専業住職になられたが、それは「自分の寺がかわいい」という思いが強かったからとも言われている。しかしながら、その住職の職分もそこそこに、やれしゃべりだ実習所だとかスカウト気遣いになっておられた先生の姿を憶えておられる方も、いまだ数多いことと思われる。



〒604 TEL 075-231-6002
京都市中京区丸太町通堺町西入鍵屋町66 佐竹ビル4F

宮西徳明 みやにし とくあき

(BS京都第38団OB)

当時、ひ弱な小学生だった私を心配した母親が、知人の紹介で、カブスカウトに入団させてくれました。

母に手を引かれ、寺町通りを上がっていく遠い道程、長休寺の門をくぐって、本堂の横を通り、裏の広場へ・・・今から約30年前の心象風景が私と小川先生との出会いでした。

以後、中学、高校時代の多感な「青春前期」(私の「青春後期」は「法律」との出会いからでした。)に、小川先生の御指導の下、スカウト活動を通じ、自然に親しむことを教えて頂き、多くの友を得ました。この時期の数かぎりない「いい思い出」が自分には大切な宝物です。

これからも、小川先生は、多くの人の心の中に生き続けられることと幸いです。先生、本当に有り難うございました。



〒540 TEL 06-761-8221
 大阪市中央区久宝寺町3丁目3番10号

目 幸 等 僊 みゆき とうせん

(大谷スカウト連合協議会委員長・BS大阪第41団委員長)

先生との出会いは昭和25年旧近畿オケ4個実修所の所長として
 その声援に待った35オケ大阪連盟理事在任中で、オケ決意中、
 今更しは慮えざる命小生養育を指導者面としていたこと、赤面の
 至りて、静かな深い目でして、傾向や態度に慮っていたこと
 が胸に沁み来る。

その後大谷スカウト大阪信太山、金沢卯辰子等の青少年大会を始め
 名譽奉仕訓練(5.6.7)隊長(30~36)団委員長奉仕、年次団
 の総会、常任委員会、各種研修会には、その自慢の「デジ洋装」
 時には奥至りば上加茂の料亭へ後輩を誘い、水相の子をくずして
 歓談の時を過ごし、共走馬燈の如く、追慕の心算をのみ鳴らす
 可。

先生に接した誰かが、そのそばかといふ出で、慈愛の泉、英文のま
 ちがし、似て人を暖衣に包むる寛容と、進行の方向を及ぼせし
 めずにはかかぬ履のむかぬ具えておられたことか、泣き死にたい。

名訓リーガ初体論の朝礼の団委員長感話に、その所持がナイフ。
 手入と切小味と装束られた隊長ナイフは、未だに玉散る輝きを發せ
 て先生がスカウト道への情熱と、私に本えられた諸君の光の路を
 提示して已ません。

謹んで先師小川玄諦先生のか導を偲びつゝ、命章いたし可。
 俱 会 一 處。

尚に建礼川路の二層塔は先生のご墓石の傍に、舟を我ら使用して載せ可。



〒920 TEL 0762-31-6115
 石川県金沢市本町1丁目2番10号 西福寺

三輪谷 諒 みわたに しん

(自称 不肖の弟・BS金沢第1団・石川県副連盟長)

明、平成6年は、私たち金沢第一団の創設60周年になります。10年前
 50周年の時には、わざわざ小川先生ご夫妻に金沢までおいでいただき、
 式典に華を添えていただきましたので、今度の60周年にも必ずおいで下さ
 いと、お約束申し上げておりましたのに――

野間修先生亡き後、大谷スカウトの輝かしい歴史の生き証人として、また
 日本スカウト道の先達であり、我が師であり、兄とお慕いした先生――

私の眼や、肝・胆の手術のことなど、ご自分のことを忘れて、ご心配いた
 だいた先生―― 残念であります。

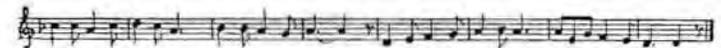
しかし、お亡くなりになったあと、先生ご夫妻の若き日の一途なロマンス
 エピソードをお聞きし、さすが小川先生！ お幸せだったのだなあーと、あ
 の先生の優しさと思いやりの深さと芯の強さの秘密を思い知らされ、悲しみ
 の中にも嬉しく存じました。 私もあといくばくもなく、お供いたします
 。ご迷惑でしょうが先生のキャンプサイトの一隅を、どうぞ空けて待ってい
 てください。 合 掌

合 掌

小川玄諦 詞



1. またたくほしのきよらけくー かこむかがりび いましずかー



なごりつきねど はらからのー たのしきつどい おーもいでにー

2. ところのしらべ みちたりて み手にゆだねし 今日のさち

あわず手と手に よろこびを ふかくおもいて ねむらなん

おやすみ なさい



〒605 TEL 075-561-0093
京都市東山区白川筋三条下ル梅宮町 485

八木 清 やぎ きよし
(盟 友 ・ BS京都連盟 副連盟長)

小川玄諦師を偲んで

小川師のご急逝の報に接し、『無事に新年を迎えて、祝意をかわし得ます慶びと共に、ご健康を念じます。』との年賀状を頂いて間もないのに。そして、ふと最後にお会いした4団の40周年記念式典があった日、それが、60有余年スカウティングで結ばれた友情の生ある内の最後となったことを。

初めてお目にかかったのは、何時、何処と記憶がないが、昭和6年、大谷大学専門学校在学中、『ちかいの式』をされ、大谷都健児団の活動に従事されているという記録によると、当時、第2健児団の団長をしていた私とは、その頃ではなかったかと思う。

師のご性格は、温厚で、真の宗教家らしい穏やかなお話し振りが、事、スカウティングに関しては、B・Pのスカウト精神にのっとり、一寸の妥協も許されなかった。

師と特に、親しく、ご援助して頂いたのは、戦後、京都連盟の再建の時である。昭和21年東京で、故三島総長の再建運動に呼応して、京都のスカウト運動の創始者故中野忠八先生が、同志を集めて再建に着手されたが、不幸、24年9月にご急逝され、私が引き継いだときに、故桐山隆三氏、故中野恭雄氏等と共に、手伝って下され、同年12月4日に、京都連盟結成にこぎ着けたのである。事後は、指導者の教育面のご担当をお願いした。

師との関係を考えてと限りがないが、せめて、2年後の平成7年の連盟の80周年の記念式典を、ご一緒にやりたかった。

今、ここに、かけがえのない先覚者を失ったのは、残念の極みではありますが、生涯をスカウトの道に捧げられたご高徳をいつまでも忘れません。幽明境を異にしましたが、ここに、思を新たにし、スカウトの弥栄をもって、ご遺志に答えることを、ご霊前に誓います。



〒602 TEL 075-451-6287
京都市上京区新町通鞍馬口下る下清藏口町 111

八木 生次 やぎ せいじ
(BS京都第38団在籍・CS元隊長・団委員)

小川先生の思い出 八木 生次

例年の様に先生のお見送りをうけて趣かガ夏キャン(平成2年)。スカウト達は夏休み後半の疲れもピークで先が不安だったが、「リーダーが確りやっばいればスカウトは直ぐ元気になるよ」と、聞きとりにくかったが、お言葉を頂き、送る思いで出発。



そして、ハウス長休でお迎え下さる先生は無事帰りましたと、報告する事が出来ました。

同年10月「長休寺七不思議」のテーマで先生からお寺の歴史や先生の生い立ち、38団創団当時の様子を聞く機会に恵まれた。

隊集会でお願いしていたが、ご多忙で「遅くりエケ」合同組集会の形で行った。

古地図を見せてもらったり、ご自身の食しかった少年時代や昔のスカウトのヤンチャ振り等遠くを見るまなざしで語って下さった。

お話を聞き終って子ども達の感想を聞けば「よくわからん」「たいくつ」だったが最後まで騒がず、何を肌で感じ取っていると思った。





〒603 TEL 075-493-9977
京都市北区大宮玄塚北東町 1-16

山岡 隆久 やまおか たかひさ

(BS京都第38団OB)

突然の小川先生の訃報には、大変驚きました。今まで、お世話になってきた方が、他界されると、皆様同様とて悲しい事です。
私は、昭和46年10月31日に「ちかひみ式」をして、カブ隊へ入隊以来、22年間 お世話になってきました。人生の節目には、小川先生のお言葉を頂いて、成長してまいりました私にとりては、もう二度と先生のお話を聞く事ができないかと思うと、残念でなりません。
下の写真は、カブ隊の「しか」の時に長休事で、組集会をしているところを、連盟の雑誌に載せよとかで、小川先生が撮って下さったもので、先生は、この様子姿が、本当の組集会のありかだと、私の母(当時DM)におっしゃっていらしたそうです。
スカウト時代、先生と多くのリーダーの方々に、大きなお助け頂いた精神をベースに、これから頑張ります。我が子にもそれを伝えたいと思います。



当時の桜の樹はまだ直径10cmにもなっていない。



〒603 TEL 075-464-7722
京都市北区紫野下柏野町 16-9

山岡 晴枝 やまおか はるえ

(BS京都第38団育成会OB・元DM)

悼 先達の浄土にみそむす春の朝
御教之の庭いっばいに花いらく

小川先生との出会いは昭和46年10月31日息子がカブスカウトに入隊させて頂いた時から21年余りになります。
優しい穏やかな声で丁寧に話を聞かせて頂いた小川先生のお姿にも二度と接することが出来ないと思うと胸が潰れる思いです。今は一児の親となっている息子のカブスカウト時代の3年間(特にDMの年)幾度となく有為なお話を聞かせて頂き又息子自身も成長の節目には先生の御指導を賜わり、人格形成に大きな影響を頂きました。有難く感謝いたしております。
- 昨年4月には「お花見とデジャヴーOB会」を催して下さり、久し振りに先生のお元気なお姿に接し、楽しいときを過ごさせて頂きました。これからは毎年お目にかかれるものと
思っておりますのに、今春の御急逝に驚くと共に深い悲しみに沈んでおります。残念で成りません。
色々とお世話になりました。
さようなら



合掌

平成5年5月



〒603 TEL 075-492-2925

京都市北区小山上内河原町 31

山 川 常 七 やまかわ つねしち

(BS京都第38団育成会・二人の子どもがお世話になった)

小川先生とは昭和46年頃からであったかと思いますが、長男勝也が故水野孝君の紹介でサンパチのカブ隊に入隊させていただき私が団委員の講習会に参加して先生のお話を聞いたときからお亡くなりになるまで20有余年にわたりお付き合いさせていただき、ご指導いただきました。最初の印象は、お声の小さい、もの静かな先生ということでした。何も知らない私にスカウト活動や奉仕活動の素晴らしさをお教えいただき、団委員として、又リーダーとしてまがりなりにも奉仕することが出来たのも先生のおかげです。スカウトに対しても、リーダーに対してもあくまでもその個性や自主性を尊重され、細かいことは指摘されず、質問すれば適確に答えられ、先生の強い信念、情熱と行動力、すべてに寛大で辛抱強く見守っていただいた事など、今更ながら先生の偉大さに頭が下がる思いです。

私と家内には奉仕させていただく楽しみを教えていただき、息子たち二人にはリーダー体験を通じて学校では得られないものを体得させていただきました。そして今、私の後継者としての訓練に耐え、奉仕の精神を忘れずにそれぞれの人生を歩んでくれることと思います。これもひとえに先生のご指導、賜と親子ともども深く感謝しています。今後は我々家族がサンパチの発展のために少しでもお役に立てることが先生のご恩に報いることと確信しています。



〒606 TEL 075-721-2144

京都市左京区下鴨下川原町60

若 城 道 雄 わかしろ みちお

(昭和24年BS京都第4団入隊 以来指導を受く)

2月28日の団委員会は、45周年記念行事のプログラムを検討する予定であったが、リーダーサイドの集まりが悪く、小川先生もご用事とかで、いつものように育成会長の司会で始まった。団の現状から判断して、いま45周年を大々的に祝うより、50周年に向けて雌伏するときではないかしかし、小川先生も50周年という86、数えて言えば、米寿になられる。それまでお元気でおられれば良いが、やはりお元気な今のうちに、45周年をやるべきかなー、と育成会長の独り言のようなお話を聞いているうちに、小川先生もお見えになり、いつしか45周年の話にはいり込んでいた。このところ、不順な天候で、悪い風邪が流行っており、おたが注意せねばと、団委員会も終り、いつものように、ハウスの階段から小川先生の見送りを受けて、寒夜の中を家路へ急いだ。そして、2週間後のご訃報、家族一同が呆然とした。

私は、昭和24年下鴨中学に入るやいなや、現在の4団、当時の4隊に入隊し、先生の薫陶を受けることになった。皇居前でテントを張ったジャンボリー、初めての東京、焼け残った本願寺別院の仮泊、畳敷のトイレ、北小松の恒例のキャンプ、糺の森でのキャンボリー、優勝して当然と期待され辛い思いもした。しかし、ファイアの残り火に照らされ、肩を組み、ハミングのなかで、もの静かにスカウトの道を説かれる小川先生のあの話は、聞いた者でなければ分からない、太古に戻ったような漆黒のなかで不思議な説得力のある大好きな時間であった。大学に入った夏の大悲園のキャンプに隊付として、御礼奉公し、しばらくスカウトと縁が切れていたが、宝塚の社宅から下鴨に帰り、次男の成長とともに、親子二代にわたり、4団にお世話になることになった。それからでも、14、5年にもなる。いささか低調な4団の現状にたいし、少数精鋭を説かれた先生、ご恩に報いることなく、心寂しい思いをさせたことを悔いるばかりである。私のような心弱い人間が、道を踏み外すことなく、何とか正道を歩んで来られたのも、少年の頃、小川先生のご指導を受け、ちかい、おきての教えに大きく外れることなく人生を生きるよう諭された先生のお蔭であろう。スカウトの先達というより、人生の師を失い、心の拠所を失っているというのが正直なところである。

権勢を嫌い、質素を尊び、常に野にあって人の道を説かれた先生、今はない。心にポッカリ穴が開いている、悲しい限りである。